

服飾芸術科
専門教育科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：必修
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
ナンバリング：F31A01			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	2年間の学修成果をディプロマポリシーに基づいて振り返り、履修モデルに即したテーマを設定し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーション資料の制作過程におけるデータ収集、データ整理、考察、内容の構成、さらに発表における効果的な伝え方や見せ方のスキルを身につける。 (授業目標) ◎C：プレゼンテーションのテーマにふさわしい内容を構成することで、思考力および判断力を修得する。 ○D：ディプロマポリシーに基づき、自分自身の2年間の学びを理解し、身につけた知識を的確に説明できる。
授業計画	1 学長講演、避難訓練（服飾芸術科専任教員） 学長講演、避難訓練 2 本ゼミナールの概要、制作（1）（服飾芸術科専任教員） 研究計画の概要、資料収集およびプレゼンテーションの手法について 3 制作（2）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、調査方法、制作方法等をまとめる 4 制作（3）（服飾芸術科専任教員） 資料収集およびプレゼンテーションの個別指導 5 制作（4）（服飾芸術科専任教員） 資料作成およびプレゼンテーションの個別指導 6 プレゼンテーション（1）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 7 プレゼンテーション（2）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 8 PROGテストの実施 PROGテストの実施 9 「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について 10 プレゼンテーション（3）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 11 プレゼンテーション（4）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 12 プレゼンテーション（5）（服飾芸術科専任教員） ゼミ別による発表、意見交換、評価 13 プレゼンテーション（6）（服飾芸術科専任教員） ゼミ代表者による合同発表、「卒業後の生き方について」講義 14 PROGテストの解説 PROGテストの解説 15 2年間の学びの振り返り（服飾芸術科専任教員） 2年間の学びを振り返る
学習成果・到達目標・基準	◎C：プレゼンテーションのテーマに沿った構成を思考し、説明できる。 ○D：自分自身が2年間で身につけた知識を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（25分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（20分）。
指導方法	2年間の学修成果のまとめ方を指導する。研究内容やプレゼンテーション方法について、個別もしくはグループでの指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③採点（評価）返却、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：プレゼンテーションの資料や発表方法を評価する。 ○D：プレゼンテーション内容が的確か評価する。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし

参考書	適宜、指示する
履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。日頃から他の履修科目を主体的な態度で学び、図書館の文献、メディア情報、店舗等における実態調査、映画、美術館等を活用することが大切である。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F21A02	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	卒業後の未来を見据えた服飾芸術科の学びの基本となるホスピタリティの理論と実践を教える授業。今後さらに人とAIの業務の区別は明確になり、人にはホスピタリティ理論に裏付けされた共感力コミュニケーションスキルが求められていく。特に接客業においては、マーケティングオートメーション化できないラグジュアリー、あるいはビヨンドラグジュアリーの世界では必須のスキルである。わかりやすい理論に裏付けされているため、高い再現性を期待できる。同時にホスピタリティの持つフラットな考え方をもとに、ユニバーサルな視点を育む事もできる。本学の校訓である「知好楽」の意味を授業を通じて理解し、大学ならではの知識教養を磨く事にもつながる。 ◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、日常生活に活かす事ができる ○C：個別対応が基本となる事の必要性を理解し、日常生活のシーンで「THEの対応」を考え出す事ができる
授業計画	<p>1 ホスピタリティの必要性 ホスピタリティは何故必要なのか？</p> <p>2 共感力とは何か？ 共感力の概念の理解と事例紹介</p> <p>3 ホスピタリティ理論（1） ホスピタリティのファーストステップの概念と国際感覚</p> <p>4 ホスピタリティ理論（2） ホスピタリティのセカンドステップの概念と3つの効果</p> <p>5 ホスピタリティ理論（3） ホスピタリティの二つのアビリティ 右脳編</p> <p>6 ホスピタリティ理論（4） ホスピタリティの二つのアビリティ 左脳編</p> <p>7 ホスピタリティ理論（5） THEのコミュニケーションの作り方</p> <p>8 想定能力と水平思考 かもしれないゲームによる想定能力の磨き方</p> <p>9 共感力を高める知識教養とナレッジツリー 教養とは何か？知識教養の広げ方と楽しみ方</p> <p>10 共感力会話（1） 共感力を使った二つの会話スキル</p> <p>11 共感力会話（2） 共感力を使った質問手法を知る</p> <p>12 ファッション業界事例 ファッション業界で活かせるホスピタリティ</p> <p>13 ビューティ業界事例 ビューティ業界で活かせるホスピタリティ</p> <p>14 ウエディング業界事例 ウエディング業界で活かせるホスピタリティ</p> <p>15 これからのホスピタリティ 就職活動や日常生活にどうホスピタリティを活かしていくか</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：ホスピタリティ理論を正しく理解し、自分の言葉で説明する事ができる ○C：ホスピタリティのセカンドステップの重要性を理解し、自分の言葉で説明する事ができる
事前・事後学習	◎D：リーディングワークシートに沿ってテキストの指定されたページを熟読した上でシート記入をし、内容を整理する。（90分） ○C：毎回の課題に取り組む。授業で学んだコミュニケーションシーンを自分の別の日常生活に置き換え記録しておく（90分）
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用いた講義形式を中心とし、グループディスカッションを通じて毎回の課題を授業内でまとめる。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：ホスピタリティ理論を正しく理解しているか C：ホスピタリティ理論を基に具体的な行動に導く事ができるか 課題提出50%、受講の主体的姿勢40%、授業内確認小テスト10%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 出版元：コスモ21

	必要に応じてプリントを配布
参考書	なし
履修上の注意	単位取得者は(一般社団法人)日本ホスピタリエ協会認定資格「ホスピタリエ」の認定講座修了者として認められホスピタリエ認定試験の受験資格が得られる。 服飾芸術の学びの根幹となる考え方であるため、授業内で「考える姿勢」を持つ事。 ホスピタリティの学びの場であるため、教室内のホスピタリティにも気を配る事。 ディスカッションタイムも多いため、積極的に他学生とのコミュニケーションを取り、主体性を持って授業に臨む事。
アクティブ・ラーニング	授業内でグループに分かれてワークショップをする。毎回クラスルームに提出し、その内容を次回の授業内で共有する。講師と学生、学生同士の意見交換をする事により、深い思考を促す。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F11A03			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	衣服を考える時、自然環境や歴史、習慣や職業、着心地やファッションセンスなど、様々な条件が挙げられる。その基本は、個々の人体に対する快適な衣環境として、素材・デザイン・縫製等が不可欠であり、体型に適合した衣服を着用することは、快適な衣生活の条件と考えられる。 衣服の起源から既製衣料までを大きく「環境」「人体」「生産」「消費」の項目に分けて学修する。 (授業目標) ◎D：着衣基体である人体構造と素材、デザイン、パターン設計の関係について理解できる。		
授業計画	1	衣服の起源と推移 衣服の起源、衣服の機能、生活様式の影響	
	2	衣服と環境（1） 立体構成服と平面構成服	
	3	衣服と環境（2） 日本の伝統衣裳、和服の形態的特徴	
	4	衣服と環境（3） 和服の基礎知識	
	5	衣服と人体（1） 日常生活における動作と衣服圧	
	6	衣服と人体（2） 人体計測	
	7	衣服と人体（3） 衣服の美的因子と身体因子	
	8	衣服と人体（4） シルエット とディテール	
	9	衣服と生産（1） 素材と造形性能	
	10	衣服と生産（2） 注文服の製造工程	
	11	衣服と生産（3） 既製服の製造工程	
	12	衣服と生産（4） 衣服の種類とサイズ表示	
	13	衣服と生産（5） パターン設計におけるゆとり	
	14	衣服と消費（1） 既製服衣料の選択と購入	
	15	衣服と消費（2） 衣生活と環境、着装の工夫	
学習成果・到達目標・基準	◎D：体型分類、寸法、布地の扱い方について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：授業計画のテーマについて検索し、知識を得ておくこと（90分）。 事後学習：人体と衣服の関係性を多面的に捉え、実証できるように、知識と技術の理解を深め復習をしておくこと（90分）。		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、衣服に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。 フィードバックの仕方：①小テスト実施②小テスト実施後、質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、授業内小テスト、授業への貢献度、課題を評価する。 定期試験50%、小テスト20%、授業への貢献度20%、課題10%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布		

参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』：笠井フジノ, 他 6 名, 文化出版局 『アパレル構成学 着やすさと美しさを求めて』：富田明美, 株式会社朝倉書店
履修上の注意	衣服製作を行うための基礎となる理論を学修する。日頃着用する衣服がどのような構造によってできているのか、また着心地に関して考えること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F11A04	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ブランドを経営する上で商品以外にも関わるデザインは多い。平面的なデザインに重点を置き、なぜそれが多くの人の心を動かしたのか、相手にどのように表現すれば、商品が伝わるのかを考えられるビジネス的なデザイン思考を学ぶ。また、多様化の時代に多くの人が美しいと感じる普遍的なものを学び、新しい提案につなげる。また、ポートフォリオなどのレイアウト術に活かせる基本を学ぶ</p> <p>(授業目標)</p> <p>広がるファッションの分野で様々な活かせるデザイン思考を学び、実践に活かせる力を身につける。</p> <p>◎C：ブランドや商品を研究しコンセプトやターゲットに合うデザインを考えることができる。</p> <p>○D：商品をより良く伝えるデザインを論理的に導くことができる。</p>		
授業計画	1	アート思考 デザインとアートの違いを知り、0から1を生み出すアウトプットの重要性を知る	
	2	デザイン思考 デザイン思考で生まれた商品などを知る。デザイン思考のプロセスを体感する	
	3	デザインの歴史 時代と共に変わるデザインを知る 流行にとらわれず、社会を知ること、生まれるデザインを考える	
	4	デザインの種類 様々なデザインの種類を学び 身の回りに溢れるデザインを見つけ考察ワークを実施	
	5	ビジュアルアイデンティティー ブランドとお客様のコミュニケーション ブランディングに関わるデザインを調べる	
	6	ロゴデザイン・フォント ロゴの持つ役割とブランドストーリーを知り、表現する力をつける	
	7	コーポレートカラー&ブランドカラー・デザインエレメント 色の作用やデザインのパーツによりブランディングを強化する	
	8	配色 色の特性を知り言葉からイメージされる配色を作り表現する 季節やテーマごとに変わる販促に有効に活かす	
	9	フォント フォントデザインの基本と印象	
	10	文字のジャンプ率 デザインの基本要素である対比を学ぶ 情報の優先順位を文字だけで伝えるデザインを作る	
	11	レイアウト（構図） 要素の配置をどうすれば、効果的なデザインができるかを知る 雑誌の表紙や写真などをメインにデザインの考察をする	
	12	レイアウト（デザインの4原則） 商品解説やウェブページでも重要なレイアウトの4原則を学ぶ。 写真や文字など全ての情報を整理し、どのように配置すればいいかの法則を知る。	
	13	視線誘導 デザインを通してユーザー視線の流れをコントロールし、誘導するテクニックを学ぶ	
	14	適材適所のデザイン POPの種類・場所に合わせた活用方法・コンセプトに応じたレイアウト・制作 商品開発と共に繰り返されるマーケティングと販売促進の為のデザイン	
	15	時代と共に変わる企業とデザイン コロナ禍で様々な変化が起こり、ブランドにも変化が起こっている ブランド変化に伴うデザインの変化とこれからの考察する	
学習成果・到達目標・基準	◎C：コンセプトに沿ったデザインができる。 ○D：身の回りにあるデザインを知り、デザインとブランド経営の関係を知る。		
事前・事後学習	事前学習：ファッションに限らず様々なデザインに目を向ける。雑誌・広告・パッケージデザインを見て商品の何を伝えたいのか推測する。課題に備え、ECサイトなどで良いと感じた平面的デザインをスクラップしておく（60分）。 事後学習：毎回ワークを実施するので、完成させ提出する（120分）		
指導方法	パワーポイントなどの視覚媒体を多用し、視覚で感じながら解説を行う。また、ワークを実施することで表現する力を養う。		

	授業内での課題提出、およびレポート提出がある。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：課題課題、リアクションペーパー D：定期試験 定期試験30%、課題70%、授業態度および貢献度10%
テキスト	なし 適宜プリント配布。
参考書	
履修上の注意	ブランド発信に関わる様々なデザインに目を向け、感じたことや傾向を記録しておく。 なぜそのような色や型になったのか自分なりに理由付けができるよう心がける。
アクティブ・ラー ニング	ディスカッション・デザインの自己表現と考察発表など

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F21A05	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。顧客への対応、上司と部下、同僚との関係構築、取引先との折衝など、全ての場面でビジネスにおけるコミュニケーションスキルの必要性は高まっており、企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるための力を持たなければならない。本講義は、ビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、主にファッション業界で働くうえで必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を修得する。 (授業目標) ◎C：自分自身の現状を分析し、成果を出す方法を知る。
授業計画	<p>1 ビジネスキャリアとは 本講義の概要、ステップアップをするキャリアビジョンについて</p> <p>2 キャリアプランとは 理想像・自分比較・到達手段・中間目標について</p> <p>3 キャリアプラン作成 キャリアや自己の武器を分析し未来に向けたシナリオを作成</p> <p>4 企業と組織 ファッション業界の企業と組織</p> <p>5 企業研究・キャリアアッププラン ファッション業界でのキャリアアップについて、企業研究・IR資料の読み方</p> <p>6 ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションとビジネスコミュニケーションについて</p> <p>7 職場でのコミュニケーション 挨拶の効果、依頼・断る・謝罪、好かれる力、反省力、巻き込み力</p> <p>8 職場でのプレゼンテーション アイデアと企画・ターゲットについて・企画書作成</p> <p>9 ビジネス知識・ビジネスマナー ファッション業界のワード、一般的なビジネスマナー</p> <p>10 仕事術・PDCAサイクル 仕事の方法、手順と優先順位、PDCAサイクル作成</p> <p>11 ビジネスフレームワーク PDCA以外のビジネスフレームワーク</p> <p>12 情報分析力 仕事に役立つ分析力、顧客分析力</p> <p>13 ワークライフバランス ワークライフバランス、女性のキャリア開発、ブラック企業問題、ダイバーシティ経営</p> <p>14 ターゲット分析・自己のSWOT分析 コーチングで使用するターゲット別攻略法、SWOT分析</p> <p>15 ペルソナ像設定とプロファイリング ペルソナ像設定、プロファイリングについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（60分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（120分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内での授業内課題の提出、およびアンケート提出がある。 授業内PC使用（Word、PowerPoint）
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：授業内確認課題、期末課題を評価する。 期末課題50%、課題35%、授業態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。

参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。 パソコン使用
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F11C06	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、ファッションの色彩、インテリアの色彩などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には検定対策の参考となるように問題集も活用する。 (授業目標) 色の3属性(色相・明度・彩度)のしくみについて確実に理解する。 ◎D：色相、明度、彩度について理解し、色相環・トーン図の基本を描くことができる。 ○E：慣用色名の例を挙げて詳しく説明することができる。
授業計画	1 色のはたらき 色と心地よさ、色とイメージ、色とアピール 色と区別、色と見やすさの調節 色と統一感、色と象徴 2 色はなぜみえるか (Classroom) 光とは何だろう 光の性質と色 3 眼のしくみ (Classroom) 色を見る眼のしくみ 網膜における光の処理 照明と色の見え方 4 混色とは何か (Classroom) 加法混色 減法混色 混色を応用した身近な例 5 色の3属性 (Classroom) 色の分類 色の3属性 等色相面、純色、清色、中間色 色立体、表色系 6 PCCS (Classroom) 色相、明度、彩度 3属性による色の表示 色相環、トーン 7 慣用色名 (Classroom) 系統色名、JIS慣用色名 和色名 外来色名 課題「慣用色名」 8 色の心理効果 (Classroom) 色の連想と象徴 残像、対比、同化、面積効果 9 配色イメージ (Classroom) 色相と配色イメージ 明度と配色イメージ 彩度と配色イメージ トーンと配色イメージ 10 色彩調和① (Classroom) 色相を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色 色相とトーンを組み合わせた配色 11 色彩調和② (Classroom) アクセントカラー セパレーション グラデーション 12 ファッションと色彩(Classroom) 流行色のしくみ 色相とトーンを組み合わせたカラーコーディネート パーソナルカラー診断の基本 13 インテリアと色彩 (Classroom) インテリアデザイン インテリアのカラーコーディネート

	<p>14 インテリアにおける色の心理的効果 色と文化(Classroom)</p> <p>15 色と時代 色と美術 色と文学 色と食文化 色と音楽 色と世界 (Classroom) 世界の国の象徴色、国旗 フランスの四季の配色</p>
学習成果・到達目標・基準	色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について理解できる。 ○E：慣用色名の例を挙げて由来を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる（90分）。 事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（90分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には検定対策に直結するように、問題集をテキストとして活用する。 パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 classroomで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、小テストを評価する。 E：課題を評価する。 課題20%、小テスト50%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト3級」（色彩検定協会） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199用演習台紙」（日本色研事業株式会社）
参考書	「文部科学省後援 色彩検定 改訂版公式テキスト2級」（色彩検定協会）
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 1年後期「カラーコーディネート演習」、2年前期「トータルコーディネート演習」は、本科目を単位修得済であることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F21C07	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、パーソナルカラー診断の基礎を学び、似合う色と似合わない色の見分け方を身につける。また、アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネートを通して美しい配色調和の方法を身につける。アロマセラピーのエッセンシャルオイルを用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。</p> <p>(授業目標)</p> <p>色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。</p> <p>◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。</p> <p>◎C：パーソナルカラー診断の基本的しくみを理解し、自分自身のベストカラーを導き出せる。</p>		
授業計画	1	パーソナルカラー3級 序章、1章 色彩活用としてのパーソナルカラー パーソナルカラーの基本	
	2	パーソナルカラー3級 2章 色のイメージを豊かにする 4タイプ別慣用色名 【課題1】	
	3	パーソナルカラー3級 3章 似合う色の基準を知る 肌、眼、髪の色素の見分け方 【課題2】	
	4	パーソナルカラー3級 4章・5章 似合う色を客観的に探す ドレーピング方法 診断の準備	
	5	パーソナルカラー3級 5章 パーソナルカラー診断 カラーペーパーによる相互診断 【課題3】	
	6	パーソナルカラー3級 5章 診断結果まとめ 4つのタイプ 6つの得意な要素 【課題4】	
	7	パーソナルカラー3級 6章 似合う色を取り入れるトータルコーディネートのコツ 素材の質感、柄 ライン、ボリューム、光沢	
	8	同系色と反対色の確認 色相差による配色 同系色、反対色 イメージによる配色	
	9	同系色のブーケ①花選び 花と葉を選ぶ 色相・トーン表に記入	
	10	同系色のブーケ②制作 ワイヤリング、テーピング	
	11	同系色のブーケ③仕上げ、完成、提出 持ち手のステムの処理 リボン仕上げ 撮影 エッセンシャルオイル 【課題5】	
	12	反対色のブーケ①花選び 花と葉を選ぶ 色相・トーン表に記入	
	13	反対色のブーケ②制作 ワイヤリング、テーピング	
	14	反対色のブーケ③仕上げ、完成、提出 持ち手のステムの処理 リボン仕上げ	

	撮影 エッセンシャルオイル 【課題6】 ブーケ発表 色相差の効果 配色イメージ プレゼンテーション 【課題7】
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。 ○C：パーソナルカラー診断の基本的しくみを理解できる。
事前・事後学習	事前学習：配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む（20分）。 事後学習：理解不足の部分を復習する（25分）。
指導方法	毎回パワーポイントを使用する。 パーソナルカラー診断は、グループで相互診断を行えるよう指導する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を各自参考にする。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：パーソナルカラーの基本知識と診断力を課題で評価する。 E：フラワーコーディネート制作課題において、配色調和の完成度とバランスを評価する。 課題70%、授業態度・授業貢献度30%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」 *「新配色カード199a」（日本色研事業） *は、1年前期に購入したものが使えれば継続使用できる。
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	①前期「カラーコーディネート論」を単位修得済みであることが履修の条件である。 ②授業時にテキスト、問題集、「新配色カード199a」、「新配色カード199用演習台紙」を各自持参する。 ③グルーワークでは、マウスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラーニング	制作実習 グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
ナンバリング：F21C08	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>その人らしい装いには、スタイル分析による体型、パーソナルカラー分析による色素、アイデンティティ分析によるイメージ、商品知識やファッショントレンドなど、多くの情報を同時にまとめるための知識と構成力が必要である。イメージカラー・ジュ制作を通して、なりたい自分を明確にし、トータルコーディネートの実践的な力を身につける。多くの要素をまとめる力は、他人へのコーディネート提案に応用ができる。コーディネートアプリを活用してアバター「もう一人の自分」を試作する。自分らしき生かしたビーズブレスレットを制作して個性を表現し、自分らしいファッションについて各自プレゼンテーションを行う。</p> <p>(授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現であることを実習を通して学び、個性を生かしたトータルコーディネート提案ができる。 ◎C：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋がる診断ができる。 ◎E：パーソナルスタイルとカラーを生かしたブレスレットを制作することができる。</p>
授業計画	<p>1 ファッション用語（1） ファッション用語のカテゴリー10分類 カテゴリーごとの用語例</p> <p>2 ファッション用語（2） コーディネートの説明文を分析 【課題1】</p> <p>3 スタイル診断（1） コーディネートのものさし プロポーシオン測定 理想と現実のプロポーシオン 【課題2】</p> <p>4 スタイル診断（2） 顔型と顔のパーツ分析 メイクアップとヘアスタイルの分類</p> <p>5 スタイル診断（3） 上半身のスタイル分析 ファッションアイテム：トップスの分類</p> <p>6 スタイル診断（4） 下半身のスタイル分析 ファッションアイテム：ボトムスの分類 【課題3】</p> <p>7 なりたい自分のイメージ（1） イメージカラー・ジュ制作 イメージを形にする方法 【課題4】</p> <p>8 なりたい自分のイメージ（2） コーディネートアプリの活用 もう一人の自分をアバターで作成 【課題5】</p> <p>9 パーソナルカラー（1） 4つのタイプ 6つの得意な要素</p> <p>10 パーソナルカラー（2） カラーペーパーによる診断 グループワークにおいて、診断を体験</p> <p>11 パーソナルカラー（3） 診断結果まとめ 4つのタイプ、6つの得意な要素による自分の色素の特徴 【課題6】</p> <p>12 自分らしさを生かしたファッション 自分らしさを表現するための色、形、質感 自分らしさを生かしたブレスレット</p> <p>13 ブレスレット（1） ビーズ選び ブレスレット制作</p> <p>14 ブレスレット（2） ブレスレット完成 PPT「自分らしいファッションとは」作成</p> <p>15 発表</p>

	PPT「自分らしいファッションとは」 1人2分間のプレゼンテーション 【課題7】
学習成果・ 到達目標・基準	◎C：パーソナルカラー診断を的確に行うことができる。 ○E：色の特徴を生かしたプレスレットを制作することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法	トータルコーディネートに必要な多様な診断方法を紹介し、分析して構成できる実践力を指導する。 パーソナルカラー診断では、グループワークで相互に判断する体験を指導する。 自分らしさを生かしたプレスレット制作、プレゼンテーションは、自由な発想を歓迎して指導する。 毎回パワーポイントを使用する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：パーソナルカラー診断を評価する。 E：課題の完成度を評価する。 課題提出70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社） *1年次購入したものがあれば継続使用できる。
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」改訂版（産経新聞出版）
履修上の注意	①「カラーコーディネート論」および「カラーコーディネート演習」を単位修得済であることがこの科目を履修する条件である。 ②グループワークの際には、マウスシールドを使用する予定である。
アクティブ・ラーニング	制作実習 グループワーク プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
原田弘美			
ナンバリング：F11C09			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	西洋における服飾の変遷を時代背景とともに解説する。 衣服の起源と役割、及び古代から近代までの時代様式の特徴と服飾の関連性を解説する。20世紀以降は各年代の代表的なファッションデザイナーとその作品を紹介し、過去の装いと現代ファッションとの共通点・相違点を探る。毎回、講義のテーマに合わせた映画やコレクション映像、服飾のスライドを使用し視覚的にも理解を深める。 (授業目標) 各時代様式と服飾の特徴を関連づけ、服飾の観点から西洋の歴史を読み取る力を身に付ける。 ◎D：時代背景を考察し、服飾の特徴から各時代を読み取る力を修得する。
授業計画	<p>1 衣服の起源 衣服の起源と衣服の役割</p> <p>2 古代の服飾（1） 古代エジプトの装飾モチーフと衣服</p> <p>3 古代の服飾（2） 古代ギリシャの服飾 古代ローマの服飾</p> <p>4 中世の服飾 [課題① Google Classroomを活用] キリスト教文化とビザンティンの服飾の関連性 ゴシック建築と服飾の関連性</p> <p>5 近世の服飾（1） ルネサンス芸術と服飾の関連性</p> <p>6 近世の服飾（2） 17世紀バロックのオランダモードとフランスモード</p> <p>7 近世の服飾（3） 18世紀ロココの華やかなフランス宮廷モード</p> <p>8 近代の服飾（1） 19世紀初頭新古典主義とナポレオン1世時代の服飾</p> <p>9 近代の服飾（2） 19世紀女性服のシルエットの変化 パリオートクチュールの誕生</p> <p>10 近代の服飾（3） [課題② Google Classroomを活用] 19世紀末アール・ヌーボー様式の特徴と服飾</p> <p>11 20世紀初頭のファッション 女性のコルセットからの解放</p> <p>12 1920年代のファッション アール・デコ様式の特徴と服飾 ガブリエル・シャネルの活躍</p> <p>13 1930年代～1950年代のファッション クリスチャン・ディオールの登場と第二次世界大戦後のパリモード</p> <p>14 1960年代のファッション [課題③ Google Classroomを活用] ロンドンファッションとミニスカートの流行</p> <p>15 1970年代～2000年代のファッション オートクチュールからプレタポルテへ 多様化する現代ファッション</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：近代以前の服飾と現代の服飾の特徴が区別できる。
事前・事後学習	事前学習：シラバスを参考に次回の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を読んでおく。(10分程度) 授業を理解しやすくするために、世界史、美術史など各時代の知識を得ておく。(10分程度) 事後学習：講義で学んだ内容をノートを見直しまとめておく。代表的な服飾はノートにイラストを描いて覚えるのもよい。特に課題演習の前には課題の範囲を自主学習しておく。(30分程度) 出題された課題に取り組む。(30分程度) 講義で紹介した芸術家やデザイナーについて調べ更に知識を増やす。(10分程度) 講義で使用した映画をDVDや動画配信サービスなどで全編鑑賞し理解を深める。(90分程度) 講義で紹介した展覧会に出向き実物を鑑賞し知識を増やす。
指導方法	毎回パワーポイントを使用し、画像と映像（DVD）を多用しながら視覚的に理解しやすいよう講義を進める。

	時代区分ごとにGoogle Classroomを活用し課題演習を実施する。 フィードバックの方法：課題提出後、解答を返却。返却後におけるコメントへの個別質疑対応。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	各時代の時代背景と服飾との関連性が理解できているかを評価する。 D：定期試験と提出課題を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩「改訂版・西洋服装史」文化出版局
参考書	
履修上の注意	講義の進度により、授業計画が一部変更される場合もある。 課題やレポート提出が追加されることもある。 授業中は撮影禁止。
アクティブ・ラー ニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
竹田久美子			
ナンバリング：F11C10	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の民族衣装である「きもの」について、基礎的な知識を学ぶ。現代のスタイルへと変化していった歴史や「きもの」に不可欠な伝統文様、伝統色、家紋、染織技術について解説していく。また、「節目のきもの」や目的に合わせた「きもの」の選び方について理解を深める。 (授業目標) きものに関する一般的な基礎知識を修得する。 ◎D：普段着から礼装まで、目的にあった「きもの」を理解し説明できる。		
授業計画	1	日本文化の中におけるきもの 授業概要 きもの知識	
	2	きもの歴史（1） 古代～中世：きもの原形が成立する流れ 宮廷文化と武家文化における特徴 戦国～近世：きもの確立時代、この時代に生まれ特徴	
	3	きもの歴史（2） 近代：明治から現代への変遷	
	4	染色の知識（1） 日本の染色技術は、工芸品としても実用品としても高い評価があることを知り、きもの成り立ちにさらなる理解を深める。	
	5	きもの調和（1） TPOに応じた装い ミスの装い ミセスの装い 女袴の装い 男物の装い 男性の装い	
	6	紋／日本の色 きものと紋について 日本の伝統色について	
	7	染織工芸（1） 糸染めからきものが作られる工程	
	8	染織工芸（2） 主な「染めのきもの」の産地とその特徴	
	9	染織工芸（3） 主な「織りのきもの」の産地とその特徴	
	10	きものに関する基礎知識（2） きもの種類と格について	
	11	きものに関する基礎知識（3） きものと小物の名称 衣替えについて	
	12	美しい立ち居振る舞い（1） 和室における立ち居振る舞い 襦の扱い 座布団の扱い	
	13	きもの管理 きもの洗い方 きもの染め直し きもの仕立て直し	
	14	美しい立ち居振る舞い（2） 訪問時の心得 応接の心得 風呂敷・袱紗の扱い	
	15	美しい立ち居振る舞い（3） 着物姿での立ち居振る舞い	
学習成果・	◎D：普段着と礼装の違いまた、主な「節目のきもの」について説明できる。		

到達目標・基準	
事前・事後学習	事前学習：日頃から、雑誌やインターネット等で、振袖姿・袴姿など「きもの」について、色・模様・小物に注目しながら数多くの画像や解説を視聴し情報を得る。(90分程度) 事後学習：講義内容について、その都度ノートや配布資料(Classroomに同じ資料をアップ)をまとめ理解を深める。(90分程度)
指導方法	パワーポイントや映像を用い講義形式を進める。 実物を見ながらの講義もある。 Classroomを利用理解度を深めていく。 フィードバックの仕方：振り返りシートの提出。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:定期試験、振り返りシート、受講態度また授業への貢献度を評価する。 定期試験50%、振り返りシート30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じて、プリントを配布する。 ciassroomに掲載
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	欠席した場合、配布プリント(Classroomに同じ資料をアップ)を確認すること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F12C11	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインの中でも、主にアパレルデザインに重きを置き、ファッションブランドの商品企画の手法を修得する。 アパレルデザイナーや商品企画職を目指すためのコンセプトワーク、テーマに基づくファブリケーション、そして商品企画の流れを理解及び体験することにより、ポートフォリオ作成手法も並行して修得する。（スタイル画・平絵での描写課題あり） （授業目標） ◎D：アパレル商品企画の手法を修得する。
授業計画	<p>1 ファッションデザインとは 本講義の概要説明、デザインの分類と、アパレルデザインについて</p> <p>2 ファッション用語 ファッション基礎用語について（教科書使用）</p> <p>3 コレクションブランドの分析 コレクションブランドのスタイリング・素材イメージ・カラー・柄展開・アイテム分析 それに伴うファッション基礎ワードについて（教科書使用） コレクション分析（課題）</p> <p>4 ファッション素材概要 ファッション素材の基礎について（教科書使用） 小テスト</p> <p>5 ブランドコンセプト ファッションブランドのコンセプト設定とイメージマップについて コンセプトイメージマップ作成（課題）</p> <p>6 ターゲット設定（ワーク） ファッションブランドのターゲット設定とイメージマップについて ターゲットイメージマップ作成（課題）</p> <p>7 シーズンテーマ シーズンテーマに基づくシーンイメージ設定とイメージマップについて シーンイメージマップ作成（課題）</p> <p>8 シーンに基づくファブリケーション及びカラー展開 シーンの中のスタイリングを構成する素材ストーリーとそのカラー展開について ファブリケーションマップ作成（教科書使用）（課題）</p> <p>9 スタイル画 スタイル画の役割と表現手法について スタイル画作成（課題）</p> <p>10 アイテム画 アイテム画（平絵）の役割と表現手法について 平絵作成（教科書使用）（課題）</p> <p>11 同素材デザイン展開 1 同一素材を使用したアパレルデザイン展開について 確認課題</p> <p>12 同素材デザイン展開 2 同一素材を使用したアパレルデザインの展開について 同素材デザイン展開平絵作成（課題）</p> <p>13 デザイナーのマーチャンダイジング 1 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 確認課題</p> <p>14 デザイナーのマーチャンダイジング 2 商品企画構成上のマーチャンダイジングについて 同素材デザイン展開企画の確認及び修正（課題）</p> <p>15 最終企画構成確認修正 ブランドコンセプト・ターゲット設定に基づく商品企画 ポートフォリオ確認及び修正 期末課題として提出</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：アパレル商品企画の手法概要を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でファッションデザインの知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。（90分）

指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。毎回テーマごとに進めていき、描絵での表現を含むポートフォリオをシナリオ的に作成していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：最終課題を評価する。 最終課題50%、授業内課題30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「スタイリングブック」高村是州著、株式会社グラフィック社
参考書	なし
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEN、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント）、猫絵あり 2年前期「商品企画演習」は、本科目を単位取得済みであることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
江頭誠			
ナンバリング：F12C12	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインに必要なデザイン画、スタイル画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。 市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (授業目標) ○C：描く対象物やディテールに適した技法を判断し表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。
授業計画	<p>1 講師紹介、ガイダンス 講師の紹介（制作物、メディア情報等の紹介） ファッション イラストレーションAの授業の概要説明</p> <p>2 基本プロポーション説明 ファッションイラストにおける人体の基本プロポーションについて（正面、横） イラスト制作に便利なツールの紹介</p> <p>3 アイテム図の表現 スカート、パンツ、ジャケットの描き方、画材の使用法について 諸所の画材を用いて実験</p> <p>4 スカートのスタイル画（1） スカートのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>5 スカートのスタイル画（2） スカートのスタイル画、線画の完成</p> <p>6 スカートのスタイル画（3） スカートのスタイル画の着彩、仕上げ</p> <p>7 イラスト模写 イラストからポージング、アイテムの描き方を参考にし模写</p> <p>8 写真模写 ファッション雑誌等のモデル写真からポージング、顔の表情を参考にし模写</p> <p>9 パンツスタイルのスタイル画（1） パンツスタイルのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>10 パンツスタイルのスタイル画（2） パンツスタイルのスタイル画、線画の完成</p> <p>11 パンツスタイルのスタイル画（3） パンツスタイルのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>12 オリジナルテーマのスタイル画（1） オリジナルテーマのスタイル画、コーディネート考案</p> <p>13 オリジナルテーマのスタイル画（2） オリジナルテーマのスタイル画、線画の完成</p> <p>14 オリジナルテーマのスタイル画（3） オリジナルテーマのスタイル画、着彩、仕上げ</p> <p>15 プレゼンテーション オリジナルテーマのスタイル画のプレゼンテーション、講評</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げるにより、アイテムのディテールを理解する。 ◎E：人体にフィットする服をディテールを理解しながら描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける（30分）。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする（30分）。
指導方法	資料や配布プリント、デモンストレーションなどによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品に加筆したデータ等を使用し、上達のためのアドバイスをを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：授業で説明したプロポーションなどの注意点が提出課題にて意識できているかを、採点の際の基準とする。 E：授業で説明した描く対象物に応じた適切な画材の使用ができているかを、採点の際の基準とする。 作品80%、授業への貢献度20%

テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリント配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げること。・課題提出物の期限は厳守すること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
飯田淳			
ナンバリング：F22C13	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	切り離して考えられない生活とファッション。その関係を意識して、オリジナリティーのあるファッションイラストレーションを制作する。多様化した生活、環境、時間、空間を調査分析して、「着ている人」を視覚化する。基礎的な表現方法を指導して、企画、構成、描写、そしてプレゼンテーションを通してコンセプトを人に伝えるコミュニケーション力も養う。 (授業目標) ○C：様々な生活スタイルから感じ取ったデザインや着こなしを企画提案する。 ◎E：色彩と形のバランス、ボリューム感を考え、着ている人物の生活も感じさせる表現技術を身につける。		
授業計画	1	ガイダンス イラストレーションの仕事を見ながらファッションとの関係を解説	
	2	色彩とシルエット 様々な画材を用いて色面を制作、シルエットに当てはめ、人物と服とのボリュームを考える	
	3	色彩とシルエット 色面で出来たシルエット画を発表して講評する	
	4	生活スタイルとファッション（1） 同世代の生活スタイルを調査分析してディスカッションを行い企画案を考える	
	5	生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する	
	6	生活スタイルとファッション（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	7	色彩とライン 様々な画材を用いて線画を制作、ラインで人物の骨格を表現する	
	8	色彩とライン 色彩と線画で出来た作品を発表して講評する	
	9	生活スタイルとファッション（1） 自分にとっての理想の生活スタイルを考え、ディスカッションを行い企画案を形にする	
	10	生活スタイルとファッション（2） 企画案からファッションのアイディアスケッチを制作する	
	11	生活スタイルとファッション（3） 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	12	自由課題 生活スタイル1、2をもとに自由な表現で作品を制作する	
	13	自由課題 好きな画材とサイズで制作する	
	14	自由課題 作品を制作して企画の狙いと共にプレゼンテーション、講評する	
	15	全体講評とまとめ 全課題を展示して、自身の感覚と考え方を俯瞰的に捉えて、将来の仕事に生かす為のアドバイスを行う	
学習成果・到達目標・基準	○C：生活スタイルとファッションの関係を意識して表現に繋げる事ができる。 ◎E：ボリュームと色のバランスを構成にいかし表現できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファストファッションからハイブランドまで、実際に展開されているショップを観察してファッションのトレンドとライフスタイルの切り口を調査し情報を収集する。（30分） 事後学習：雑誌、web等の情報からファッションの流れを予測して、画像等をファイリングして次の課題につなげる。（30分）		
指導方法	企画、アイディア出し、ラフスケッチ、制作、完成までを共に考えアドバイスしながら個性を生かした作品に仕上げる。 表現したいイラストレーションの技法に関して、画材の選択等の指導をする。 フィードバックの仕方：発表段階でより完成度の高い作品に仕上げる為のポイントを講評時に行う。ディレクション的な指摘も行う。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：生活スタイルが感じられる表現が出来ているか、企画が新鮮かを評価する。 E：伝えたい事が描けていて、オリジナリティーも感じられるかを評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	必要に応じてプリントを配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を自由な発想と分析で理解し、作品を完成させること。 ・課題提出の期限を厳守すること。 ・多くの画材に触れて特性を体験すること。
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C14	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	モノ消費からコト消費へのニーズに合わせた価値創造が出来るようデザイン思考のプロセスを用い建設的なクリエイティブを目指す。人と物やサービスをどの様に繋げるかをWebやアプリを通したプログラミング的な要素で、表現する力をつける。テーマを決めグループワークを実施。共感・問題定義・アイデア創出・プロトタイプング・テストを繰り返し、答えを導く。なぜその答えに至ったのかのプロセスに重きを置き、ビジネスで有効な伝えるデザインを目指す。 「adobe XD」を使用し、webなどを制作しながらリサーチすることで、現状のビジネスを知り、新しいビジネスに繋がるきっかけや発信方法を考察する (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を活用し、コンセプトに基づく制作ができる ◎A：主体性を持ってグループで企画を進める事ができる
授業計画	<p>1 本講座とAdobeソフトについて 今後の企画内容のガイダンスとAdobeソフトについて</p> <p>2 UIとUXデザインについてとグループディスカッション ユーザー視点に立ってサービスや商品の本質的な課題・ニーズを発見しグループでの制作のコンセプトを決める</p> <p>3 ワイヤフレーム制作 リサーチを繰り返し人と物やサービスをどのように繋げればいいのかの枠組みを決め、グループでの共通認識を持つ また、作業方針を決めていく</p> <p>4 基本操作(色・形・文字) XDの基本操作を習得しワイヤフレームを元に構造のベースを設定</p> <p>5 トップページ制作 サービスやブランドの顔を作ることで全体のデザインの方向性を決めていく</p> <p>6 基本的なUIデザインのパターンとデザインの共通概念 企画に合う基本的なデザインパーツを制作しトップページを完成させる</p> <p>7 基本操作(動き) ユーザーの意識が対象に向くように動きの付け方や試行方法を習得する</p> <p>8 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる</p> <p>9 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる</p> <p>10 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる</p> <p>11 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する</p> <p>12 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する</p> <p>13 作品全体を通しての試行 グループ内で作品を試行し、問題発見と解決を目指す</p> <p>14 回遊 作品内でユーザーを回遊させる方法を考察し魅了するビジネスに繋げる 様々な切り口で関連する情報を見せ作品を完成させる</p> <p>15 学修成果発表 講評 プラン完成後、全員で作品を試行し、評価し合う。これからのビジネスにどのように活かせるかなど考察する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：デジタルの制作技術を活かし、伝えたいことを形にする ◎A：計画性を持ってグループで企画を進める事ができる
事前・事後学習	事前学習：普段何気なく使用しているアプリやサイトに対して、なぜ使いやすいのか、機能的な表現がどうなっていると伝わりやすいかをリサーチする。XDの使用に慣れる為基本操作動画を見て事前確認をする。(20分) 事後学習：作品で使用する画像や動画など教室ではできない撮影や素材集め(40分)

指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生が出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E: 課題と成果物による評価 A: 課題や授業への貢献度を評価 作品50%、授業態度・貢献度30%、その他課題20%
テキスト	適宜フォーマット配布
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 各自PC持参 「ファッションデジタル演習B」のAdobeソフト使用の科目を履修する事で、よりデジタルスキルの向上を目指せ、就活やビジネスに活かせるポートフォリオ作りに繋がる。
アクティブ・ラー ニング	実習・ディスカッション・グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C15	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>一つの商品を企画する時に、商品のデザインだけでなく、その商品をどの様に販売していくか、それにまつわるデザインを企画し、活用方法を考察する。ポートフォリオにまとめながら、デジタルスキルを向上させる。本授業では、商品を各自選定し、そこからターゲットなどのコンセプトを決め、そのパッケージ・カタログ・グッズや服などのデザインを企画し、実際に製作する（服の場合は1/4縮尺サイズ）。紙面上ではなく、複数のデザインを実際に目にする事で、一貫したブランディングがなされていたか、適切にお客様に伝わるデザインだったかを考察する。</p> <p>「Adobe Illustrator」の使い方に重点を置き、「Adobe Photoshop」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する。プランニングすることで、デザインの思考を養い、プレゼンテーション資料制作や平面的デザインを行う (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を活用し、伝えたいことを形にする。 ◎A：主体性を持ちデザイン製作を行う。</p>
授業計画	<p>1 本講座について 今後の企画内容のガイダンス Photoshop、Illustratorの基本的操作と違いと互換性について</p> <p>2 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 基本的なフォントや文字の配置方法</p> <p>3 商品に合うグラフィック提案のコンセプトシート計画 画像のレイアウト・カラーズ方法</p> <p>4 ブランド企画とロゴマーク ブランド企画をし、コンセプトに基づいたロゴマーク作成 次回製作の為のイメージ作り</p> <p>5 ブランド企画とロゴマーク コンセプトに基づいたロゴマーク作成 次回製作の為のイメージ作り</p> <p>6 キービジュアル制作 紙媒体を制作し、デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける</p> <p>7 パッケージ・ラッピングデザイン どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる</p> <p>8 パッケージ・ラッピングデザイン どのようなパッケージが相応しいか紙媒体を応用させる</p> <p>9 ノベルティグッズデザイン企画・制作 今までのデザインを汎用させた物品企画。ブランドらしさのストーリーに基づく ノベルティグッズ（エコバッグ・Tシャツ・ポーチなどのいずれか）のデザイン制作</p> <p>10 ノベルティグッズデザイン企画・制作 今までのデザインを汎用させた物品企画。ブランドらしさのストーリーに基づく ノベルティグッズ（エコバッグ・Tシャツ・ポーチなどのいずれか）のデザイン制作</p> <p>11 1/4縮尺サイズのファッションアイテム制作 今までのデザインを汎用させたファッションアイテムを企画 布にプリントアウトし、ファブリックデザインを含めたファッション提案をする</p> <p>12 1/4縮尺サイズのファッションアイテム制作 今までのデザインを汎用させたファッションアイテムを企画 布にプリントアウトし、ファブリックデザインを含めたファッション提案をする</p> <p>13 作品撮影 今までの作品を振り返り、ポートフォリオに入れる為の撮影。</p> <p>14 企画書まとめ 今までのデザイン案をまとめ、製作物を撮影してポートフォリオとしてまとめる</p> <p>15 学修成果発表 講評 プラン完成後、鑑賞会・講評</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」他グラフィック系のソフトやアプリの基本的な技術を用いてグラフィック制作ができる。 ◎A：計画性を持ってプラン制作ができる。
事前・事後学習	事前学習：コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(20分) 事後学習：授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、課題を完成させる(40分)

指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生が出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：課題提出物、A：受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物70%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜、プリントやフォーマットデータを配布
参考書	
履修上の注意	事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や購入し持参するものがある
アクティブ・ラー ニング	実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F12C12	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>戦略的に店舗の売上を向上させるビジュアルの知識を養う。VMDによってより良いお買い場作りを学ぶ。HPなどの平面だけでなく、空間的なビジュアルに重点をおく。購入までの道筋を総合的に考えることで、様々なショップの形に活かす。</p> <p>(授業目標) ブランドを商品だけで見るのではなく商品に関わる全てのビジュアルによってお客様により良い購入体験ができるよう創出できる。 ◎D：商品やターゲットに合わせどのようなビジュアルや構成が向いているか提案できる。 ○E：ショップのコンセプトやターゲットに合わせた店内を年間で作ることができる。</p>
授業計画	<p>1 ビジュアルの重要性 ビジュアルに左右される行動や心理 VMD導入の意味と意義と仕掛け方</p> <p>2 購買行動とビジュアル オンラインとリアル店舗の共通点と相違点を明確にし お客様が目にする全てのビジュアルを考える</p> <p>3 デザインテイストの規格化と店舗デザイン ブランドテイストや商品を考慮したショップスタイリング</p> <p>4 店舗ツール ビジュアルを左右するマネキンや什器について知る</p> <p>5 売り場作り ゾーニングやグルーピングを学び、店内レイアウトを考える</p> <p>6 3つのゾーンの役割 VP/PP/IPに空間を分け、お客様を集客し分かりやすい買い場を作る</p> <p>7 IP（陳列の基本） 陳列の種類とわかりやすい・見やすい陳列を探る</p> <p>8 IP（陳列の基本） カラーテクニックやアイテム別の魅せ方</p> <p>9 PP（ゾーンのポイント） 効果的な配置場所とディスプレイ構成</p> <p>10 VP（店舗の顔） 構成の種類と効果を実施写真で考察・分析</p> <p>11 VP（店舗の顔） 販促テーマを効果的にビジュアル化する方法を学ぶ</p> <p>12 MP技法・ライティング効果 商品を美しく魅せる技法を学ぶ</p> <p>13 年間のお買い場づくり 商品の入れ替えに合わせて効果的にビジュアル化する</p> <p>14 季節の装飾 旬なおもてなしでお客様の心を掴む</p> <p>15 店内再編集とこれからの時代のVMD 商品ライフサイクルを反映する売り場の再編集方法 アフターコロナやオンラインなど変わる時代の店舗像</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：店内のディスプレイや陳列を見極めて構成できる。 ○E：年間の販促計画に合わせた商品の見せ方を考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：店舗ごとにショップ内の自分が好きな箇所と嫌いな箇所をまとめておく（60分）。 事後学習：講義の中でのキーワードをチェックリストにし、実際の店舗をリサーチする。課題やワークを完成させる（120分）。
指導方法	講義内容に関連する写真や映像等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D、E：レポート課題、定期試験を評価する。 定期試験 40%、課題40%、授業態度・貢献度 20%
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する。

参考書	
履修上の注意	百貨店や駅ビルなど様々な商業施設に足を運ぶ。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F22C17	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>小売業で重要なビジュアルを空間で捉えることで、発想したものをカタチにする力を養い、お客様に伝えるビジュアル企画を目指す。またPCで作ったものを実際に具現化する事で、表現力を養う。</p> <p>本授業では、ショップのターゲット設定しそのお客様の心に訴えるビジュアルを目指す。ショップ全体のイメージ・陳列イメージ・年間のビジュアル販促スケジュール・小物用ショーウィンドウプラン企画・実施することで、販売促進の一環であるお客様に伝えるビジュアルを目指し、ビジネスに活かす。</p> <p>「Adobe Photoshop」の使い方に重点を置き、「Adobe Illustrator」と併用しながらグラフィック系ソフトの使い方を習得する。プランニングすることで、デザイン的思考を養い、プレゼンテーション資料制作や空間的デザインを行う (授業目標)</p> <p>◎E：コンセプトやターゲットを理解し、商品やテーマが伝わるビジュアルデザインを創造することができる。</p>
授業計画	<p>1 店舗におけるビジュアル 今後の企画内容のガイダンスとターゲット設定</p> <p>2 空間・陳列などのビジュアル 什器などコンセプトの店舗空間への活かし方 IllustratorとPhotoshopの操作確認</p> <p>3 コンセプトに基づく店舗空間イメージコラージュ制作 商品やブランドコンセプトに合う店舗空間マップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作</p> <p>4 コンセプトに基づく陳列コンセプト制作 商品やブランドコンセプトに合う商品陳列のイメージマップ制作 Photoshop画像編集を習得しながらマップ制作</p> <p>5 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画</p> <p>6 年間販促計画に基づくディスプレイ計画 販促活動に基づくビジュアル提案をリサーチ・計画</p> <p>7 ディスプレイ構成 商業施設のディスプレイを考察・分析し、美しいとされるディスプレイの構成を学ぶ 今後企画の参考になる写真をコラージュ</p> <p>8 ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>9 ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>10 ショーウィンドウディスプレイ計画 テーマに沿うディスプレイプラン制作 パース製作の基本技術を習得</p> <p>11 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる</p> <p>12 ディスプレイ立体製作 PCプランをもとに必要装飾品を製作し実際に組み立てる</p> <p>13 ディスプレイ立体製作・撮影 PCプランをもとに実際に組み立てる 完成後撮影をする</p> <p>14 プランまとめ 実施写真を制作プランに入れ込み、コンセプトから実施まで一つのプランにする</p> <p>15 学修成果発表 講評 課題のプレゼンテーションと意見交換</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：販促活動の一環として、企画し実施することができる。
事前・事後学習	事前学習：コンセプトに合う各課題のデザイン例を調べ、プラン制作のイメージを固める(40分)。 事後学習：授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(20分)。

指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生が出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物80%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 各自PC持参 事前学習にしっかり取り組み、授業中は技術取得に努める 製作物により事前準備や購入持参するものがある
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F12C18			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>服飾の素材としての観点から繊維、糸、布などの基礎知識やその性質について講義や体験を通して学ぶ。また、服飾造形において素材選びはデザインの一部であり、素材は服飾を構成する要素として重要な役割を果たしていることを理解することで、服飾造形構想のヒントを手に入れる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：修得した知識を基に服飾造形の際には適した素材が選択できるようになる。また、実際の衣生活に役立てる応用力を身に付けて説明できる。</p> <p>◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質を理解できる。快適で衛生的な衣生活の知識を修得できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス（授業概要の説明）・ファッション素材の基礎 「ファッション素材の分類・三原組織と主な編物組織」</p> <p>2 繊維の分類と特徴（1） 「天然繊維と化学繊維①」</p> <p>3 繊維の分類と特徴（2） 「化学繊維②」</p> <p>4 服地の種類と特徴（1） 「織物の種類と歴史、特徴①」</p> <p>5 服地の種類と特徴（2） 「織物の種類と歴史、特徴②」</p> <p>6 服地の種類と特徴（3） 「織物の種類と歴史、特徴③」</p> <p>7 服地の種類と特徴（4） 「織物の種類と歴史、特徴④」</p> <p>8 服地の種類と特徴（5） 「織物の種類と歴史、特徴⑤」</p> <p>9 服地の種類と特徴（6） 「ニットの種類と歴史、特徴」</p> <p>10 服地の種類と特徴（7） 「その他の生地の種類と歴史、特徴」</p> <p>11 ファッション加工 「機能加工、視覚的効果のある加工」</p> <p>12 染色 「染色の仕組みと技法」</p> <p>13 柄と印刷（1） 「基本的な柄の種類、プリント技法」</p> <p>14 柄と印刷（2） 「日本伝統柄の種類、プリント技法」</p> <p>15 ファッション素材の管理 「品質管理・取扱絵表示」</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：実際の衣生活に役立てる繊維製品の扱い方を判断できる。</p> <p>◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の違いを説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：授業時の指示に従い、翌週の授業で扱う素材について予め調べる。（30分） 日頃から身のまわりのファッション素材に関心を持ち、自らの手で触れ、比較観察し、着用するよう心がける。（30分） 事後学習：講義内容を復習し、理解を確かなものにする。（120分）</p>
指導方法	<p>パワーポイントや映像などで講義を行う。授業内でのリアクションペーパーやレポート、小テストなどの提出がある。</p> <p>フィードバックの仕方：①確認問題実施、②採点（評価）返却、③授業後に解答について質疑対応</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>C：繊維製品に関する判断力をリアクションワークによって評価する。</p> <p>D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の知識を修得しているか定期試験によって評価する。</p> <p>定期試験またはレポート50%、提出物30%、授業への貢献度20%</p>
テキスト	なし

	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチやリアクションなどに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。 ・プリント配布があるため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F12C19			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。課題は「基礎縫い」と「服飾雑貨」製作とし、学習内容に沿った製作工程と使用器具の扱いなどを学修する。</p> <p>基礎縫いでは手縫い、ミシン縫い、副資材(ボタン付け等)に関する基礎的な縫製技術を修得し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決する技能を身に付ける。</p> <p>服飾雑貨製作では、機能性を考えた実用的なバッグ製作を行うことで立体的な組み立て方を学修する。</p> <p>(授業目標) ◎E：基礎的な製作技能を身に付け、課題を製作することができる。</p>
授業計画	<p>1 基礎縫い(1) (実習) 玉どめ、なみ縫、ぐし縫の基礎技法</p> <p>2 基礎縫い(2) (実習) 半返し縫、本返し縫、星どめの基礎技法</p> <p>3 基礎縫い(3) (実習) ミシン、ロックミシンの使用方法について</p> <p>4 基礎縫い(4) (実習) 置きじつけ、まつり縫、千鳥がけの基礎技法</p> <p>5 基礎縫い(5) (実習) 置きじつけ、奥まつり縫の基礎技法 ボタン等の使用方法を実習</p> <p>6 基礎縫い(6) (実習) スナップ、ホック等の使用方法を実習</p> <p>7 服飾雑貨製作基礎(1) (実習) ポケットのデザイン考案</p> <p>8 服飾雑貨製作基礎(2) (実習) 作図、裁断、印をつける</p> <p>9 服飾雑貨製作基礎(3) (実習) 布端の処理、ポケット製作</p> <p>10 服飾雑貨製作基礎(4) (実習) 持ち手を製作し胴に縫いつける</p> <p>11 服飾雑貨製作基礎(5) (実習) 胴、まち、底を縫う</p> <p>12 服飾雑貨製作応用(1) (実習) 作図、裁断、印をつける、布端の処理</p> <p>13 服飾雑貨製作応用(2) (実習) ファスナーをつける</p> <p>14 服飾雑貨製作応用(3) (実習) 胴、まち、底を縫う</p> <p>15 作品発表(実習) 仕上げアイロンをかける 発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎的な製作技能を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する(20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく(25分)。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問は授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。

参考書	なし。
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。 「服飾造形応用」は、本科目の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F12C20			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>服飾造形基礎を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製作技術を学び、課題として「ワンピース」を製作する。製作工程に関する配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。衣服の組み立て方と製作手順を学修し、製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、基礎的な縫製技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>(授業目標) ◎E：服飾造形基礎で学修した技能を活かし、課題を製作することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、課題製作に必要な生地や道具について説明</p> <p>2 採寸、作図（実習） 採寸、パターン作図</p> <p>3 作図、布地選択（実習） パターン作図、素材決定</p> <p>4 裁断、印つけ（実習） 裁断、印をつける</p> <p>5 芯の裁断と接着、裁断（実習） 必要な部分にアイロンで芯を接着</p> <p>6 組み立て（実習） しつけ糸を使用し組み立て</p> <p>7 組み立て、試着補正（実習） しつけ糸を使用し組み立て、試着補正</p> <p>8 本縫い（布端の始末）（実習） 布端をロックミシンで始末</p> <p>9 本縫い（後ろタック、肩縫い）（実習） 後ろ身頃のタック、身頃の肩を縫う</p> <p>10 本縫い（見返し）（実習） 見返しの肩を縫い、身頃と見返しの衿ぐりを縫い合わせる</p> <p>11 本縫い（前タック）（実習） 前身頃のタックを縫う</p> <p>12 本縫い（脇縫い、袖口の始末）（実習） 脇縫い、袖口の始末</p> <p>13 本縫い（裾の始末）（実習） 裾をミシンまたは手縫いで始末</p> <p>14 本縫い（装飾）（実習） デザインに合わせて装飾をする</p> <p>15 作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題を製作するための正しい縫い方を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形基礎で修得した縫い方や作業工程を各回で使用できるように復習しておく（20分）。 事後学習：授業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。
指導方法	パワーポイントや動画を使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、課題完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。質問は授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題の完成度を評価する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布

参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形基礎」を単位取得済であることがこの科目を履修する条件である。 作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平林芳子			
ナンバリング：F12C21			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	染色の基礎技法であるロウケツ染め、型染め、絞り染めの表現方法、素材との関係、工程について学ぶ。基本の染め方による試作を行なった後、各技法に適したデザインを考え染色作品を完成させる。染色の基礎技法を実習することにより、ファッションやインテリアにおけるテキスタイルデザインの特徴についての理解を深める。 (授業目標) ○D:既存の染色作品に関心を持って知識を深め、技法や工程を理解した上で作品に活かすことができる。 ◎E:技法や素材、工程について理解した上で、その特徴を活かしたオリジナルのデザインによる染色作品を制作することができる。
授業計画	1 ガイダンス・ロウケツ染めのバンダナ制作（1）（実習：1～15回） 制作課題についての説明・ロウケツ染めの素材、技法、表現についての説明・ロウケツ染めの試作を染める 2 ロウケツ染めのバンダナ制作（2） ロウケツ染めの試作を染める・デザイン画を描く 3 ロウケツ染めのバンダナ制作（3） デザイン画を実物大に描く・布にロウを置く 4 ロウケツ染めのバンダナ制作（4） 反応染料による彩色 5 ロウケツ染めのバンダナ制作（5） ロウを取る・仕上げ・作品提出 6 型染めのエコバッグ制作（1） 型染めの素材、技法、表現についての説明・型紙の作り方考え方をプリントで演習 7 型染めのエコバッグ制作（2） デザイン画を描く→Google Classroomに提出 8 型染めのエコバッグ制作（3） デザインを実物大で描く・型紙を切り抜く 9 型染めのエコバッグ制作（4） 顔料で試作を染める・顔料でエコバッグに染める・仕上げ・作品提出 10 絞り染めのバンダナ制作（1） 絞り染めの素材、技法、表現についての説明・絞り染めの試作を染める・デザインを描く→Google Classroomに提出 11 絞り染めのバンダナ制作（2） デザインを描く・デザイン画を実物大にする・布を縫う 12 絞り染めのバンダナ制作（3） 布を縫う 13 絞り染めのバンダナ制作（4） 縫った糸を絞る 14 絞り染めのバンダナ制作（5） 藍による浸染・乾燥 15 絞り染めのバンダナ制作（6） 絞った糸をとる・仕上げ・作品提出
学習成果・到達目標・基準	○D:既存の染色作品などから興味あるデザインを選択して模倣することができる。 ◎E:基本的な技法による染色作品を制作することができる。
事前・事後学習	事前学習：積極的に展覧会や美術館に行くなど、さまざまな商品、作品を見て見識を深めておくこと。技法や工程などを資料や動画で予習しておくこと（60分） 事後学習：授業で学んだ表現方法をもとにアイデアを進展させておくこと。また、技法や工程などを資料や動画で復習しておくこと。（30分）
指導方法	実習作品の全体像を把握できるように、技法と表現について解説する。 課題毎にサンプルの試作または、演習をして理解度を高める。 参考作品を提示して具体的なデザインの考え方や作業工程、注意事項などを説明した上で実習を進める。 フィードバックの仕方：デザインアイデアのスケッチに対してGoogle Classroomも活用して、技法に適したアドバイスをする。 Google Classroomにデザイン画の提出（学生）→アドバイスを記入し返却、または授業中にアドバイスを→再提出

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D:提出課題により、技法についての理解度を評価する。 E:提出課題の完成度を評価する。 提出課題90%、授業態度・貢献度10%
テキスト	なし 資料をプリントで配布、またはGoogleClassroomにアップする
参考書	なし
履修上の注意	探究心と興味を持って作品の制作に取り組むこと。 課題の作業工程を把握し、進行状況にも気を配りながら作品の完成度を高めること。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F22C22			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の「ファッション」を取り巻く様々な問題に目を向け探求し、リメイクの視点から解決に向けたプロセスをデザイン・構築する。また実際のグループワーク制作から生まれたファッションプロダクトに対し、運用を前提としたブランディングデザインを設計し、創作物の実践的な発信力を身に付ける。 (授業目標) ○A：問題探究、創作、ブランディング、発表までの流れの中で、チームワーク、主体性が発揮できる。 ◎C：諸問題の探求を通して新たな発見・発案を行い、問題解決力や実現性・再現性を身に付ける。
授業計画	<p>1 ガイダンス（授業概要の説明） 「授業概要、副資材を用いたリメイク技法説明及び製作」</p> <p>2 グループ探求1 「テーマ：生産と消費が抱える問題」</p> <p>3 グループ探求2 「テーマ：解決プロセスの構築」</p> <p>4 プレゼンテーション1 「探求内容の発表とフィードバック」</p> <p>5 ファッションプロダクトの実制作1 「探求テーマ実現のためのデザインと制作①」</p> <p>6 ファッションプロダクトの実制作2 「探求テーマ実現のためのデザインと制作②」</p> <p>7 ファッションプロダクトの実制作3 「探求テーマ実現のためのデザインと制作③」</p> <p>8 ファッションプロダクトの実制作4 「探求テーマ実現のためのデザインと制作④」</p> <p>9 ファッションプロダクトの実制作5 「探求テーマ実現のためのデザインと制作⑤」</p> <p>10 ブランドイメージ制作1 「ブランドコンセプト構築」</p> <p>11 ブランドイメージ制作2 「ロゴデザイン制作」</p> <p>12 ブランドイメージ制作3 「イメージ写真撮影」</p> <p>13 ブランドイメージ制作4 「プレゼンテーション資料制作①」</p> <p>14 ブランドイメージ制作5 「プレゼンテーション資料制作②」</p> <p>15 プレゼンテーション2 「ブランド企画の最終プレゼンテーション」</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：グループワークを通して組織の中での主体性を身に付けられる。 ◎C：解決プロセス、ブランディングコンセプトなどで積極的かつ思考性に富んだ発案ができる。
事前・事後学習	事前学習：制作や探求に必要な基礎知識の調査、及び準備。(20分) 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。(25分)
指導方法	テーマに対する探求や制作は、講義も交えて指導していく。基本的な授業全体の流れはグループワークで行い、毎時の進行状況や成果物は随時レポートする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループワーク内での貢献度、プレゼンテーション内容で評価。 C：制作物のクオリティと発案内容を評価。 プレゼンテーション50%、制作物30%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・リサーチやアーカイブ、制作などに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。・プリント配布があるため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング	探求、グループワーク、制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F22C19			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「装飾」という言葉を多角的にとらえ、「身体」→「梱包」→「空間」へとアプローチを変えながら、装飾デザインの創作について学ぶ。それぞれ「装身具デザイン（プロダクトデザイン）」ではアクセサリーや小物、「パッケージデザイン（グラフィックデザイン）」では商品パッケージとラッピング、「内装デザイン（空間デザイン）」店舗やブースデザインなど、創作活動を行いながら商品が消費者の手に渡るまでのプロセスを体感する。 (授業目標) ○C：それぞれのデザインを学び実践的に応用し、独自の発案と共にアウトプットできる。 ◎E：基礎技術をもとに、一貫したテーマを持ち独創的な制作と言語化できる。
授業計画	1 ガイダンス（授業概要の説明） 「ファッション装身具の歴史」 2 装身具デザイン（プロダクトデザイン） 1 「プロダクトデザインの基礎と装身具デザインの実制作①」 3 装身具デザイン（プロダクトデザイン） 2 「プロダクトデザインの基礎と装身具デザインの実制作②」 4 装身具デザイン（プロダクトデザイン） 3 「プロダクトデザインの基礎と装身具デザインの実制作③」 5 装身具デザイン（プロダクトデザイン） 4 「プロダクトデザインの基礎と装身具デザインの実制作④」 6 パッケージデザイン（グラフィックデザイン） 1 「グラフィックデザインの基礎とパッケージデザインの実制作①」 7 パッケージデザイン（グラフィックデザイン） 2 「グラフィックデザインの基礎とパッケージデザインの実制作②」 8 パッケージデザイン（グラフィックデザイン） 3 「グラフィックデザインの基礎とパッケージデザインの実制作③」 9 パッケージデザイン（グラフィックデザイン） 4 「グラフィックデザインの基礎とパッケージデザインの実制作④」 10 梱包技法 「ラッピングの技法」 11 内装デザイン（空間デザイン） 1 「空間デザインの基礎と内装デザインの実制作①」 12 内装デザイン（空間デザイン） 2 「空間デザインの基礎と内装デザインの実制作②」 13 内装デザイン（空間デザイン） 3 「空間デザインの基礎と内装デザインの実制作③」 14 内装デザイン（空間デザイン） 4 「空間デザインの基礎と内装デザインの実制作④」 15 展示・プレゼンテーション 「展示・プレゼンによる発表」
学習成果・到達目標・基準	○C：それぞれのデザインの基礎力身に付け、発案に活かせる。 ◎E：自分の考えをデザインにし、形にすることができる。
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。(20分) 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。(25分)
指導方法	パワーポイントや映像など基本的知識の講義を取り入れながら、制作を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は随時レポートする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：基礎力の定着度、デザイン発案の内容を評価。 E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題60%、展示、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・リサーチやアーカイブ、制作などに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。・プリント配布があるため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング	制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ			
ナンバリング：F22C24			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ハンドクラフトニットの編み地は毛糸や綿糸を用いて、1本の糸を「かぎ針」で編み上げることにより形成されていく。ニット製作に使用する「かぎ針」の素材はプラスチック、木、金属などがあり、編み針の太さは号数で表し日本規格では数字が大きいくほど太くなる。編地の製作は基準となる結び目の編み目に糸を通して、目をつなぎ合わせることを繰り返すことで編地が作られていく。かぎ針と糸の適合性、糸の特性を理解し基礎技術を学修する。応用作品は各自が編み地のデザインを考案し製作に取り組む。課題は基礎編み、モチーフ基礎編み、応用作品とする。</p> <p>(授業目標) ◎E：基礎編みで学修した基礎技術を組み合わせ編地の表現方法を理解する。</p>
授業計画	<p>1 かぎ針編み基礎技法（実習：基礎技法） 授業内容ガイダンス、編み図説明、かぎ針の持ち方、糸の扱い方、作り目、くさり編み技法</p> <p>2 かぎ針編み基礎技法（実習：細（コマ）編み） 細（コマ）編みの技法</p> <p>3 かぎ針編み基礎技法（実習：長編み） 長編みの技法</p> <p>4 かぎ針編み基礎技法（実習：透かし編み） 透かし編み技法（1）</p> <p>5 かぎ針編み基礎技法（実習：透かし編み） 透かし編み技法（2）、仕上げ方法、糸始末</p> <p>6 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 円形モチーフ編み技法</p> <p>7 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 四角形モチーフ編み技法</p> <p>8 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 六角形モチーフ編み技法、仕上げ方法、糸始末方法</p> <p>9 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） グラニースクエア編み技法、糸変え方法、仕上げ方法、糸始末方法</p> <p>10 かぎ針編み基礎技法（実習：モチーフ編み） 花モチーフ編み技法、仕上げ方法、糸始末方法</p> <p>11 応用作品製作（1）（実習：同左） 応用作品のデザインを決定、作品製作について相談</p> <p>12 応用作品製作（2）（実習：同左） 応用作品の編地を決定、作品製作について相談</p> <p>13 応用作品製作（3）（実習：同左） 作品製作（1）</p> <p>14 応用作品製作（4）（実習：同左） 作品製作（2）</p> <p>15 応用作品製作（5）（実習：同左） 仕上げ、完成</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎編みの技術を組み合わせ課題作品に応用することができる。
事前・事後学習	<p>基礎技術を理解するために事前事後学習をすること。</p> <p>事前：動画とプリントに目を通し予習をしておくこと（20分）。</p> <p>事後：各回のテーマで学修した編み図を理解し課題を仕上げしておくこと（25分）。</p>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・製作工程に関するプリントを配布し、PowerPointと動画を交えて基礎技術の説明を行う。 ・講義と個別指導を交えながら基礎技術を理解し応用作品完成までの工程について指導を行う。 <p>フィードバックの仕方：課題は評価を行い返却する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：説明に対する理解力と応用作品の完成度 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし プリント配布

参考書	
履修上の注意	授業進度に遅れている場合は空き時間などを利用して進めるように注意すること。 課題提出日は厳守すること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
永田貴恵子			
ナンバリング：F22C25			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>刺繍は針と糸から生まれる美しい手芸 (Hand craft) です。技法はたくさんありますが、基本となるフランス刺繍から始めます。刺繍の材料 (布・糸・針) や用具の扱い方を学び、実際に作品を制作しながら技術を習得します。布の目数を数えて刺すクロスステッチも学習します。</p> <p>◎E：基礎刺しの名称と刺し方を理解し正しく刺繍ができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容や授業の進め方の説明 刺繍の材料や用具の取り扱い方の説明 実際に刺繍された作品を見て刺繍を知る (世界各国の様々な刺繍を知り見識を深めるためにパソコンやスマートフォンを活用する)</p> <p>2 フランス刺繍 実習① フランス刺繍のサンプラー (基礎刺し見本) を制作する 刺繍布の準備、裁断・三つ折り縫い実習</p> <p>3 フランス刺繍 実習② 図案の写し方説明 布に図案を写す ランニングステッチ バックステッチの刺し方実習</p> <p>4 フランス刺繍 実習③ アウトラインステッチ チェーンステッチ レイジーデイズステッチの刺し方実習</p> <p>5 フランス刺繍 実習④ フリスステッチ フレンチノットステッチ バリオンステッチの刺し方実習</p> <p>6 フランス刺繍 実習⑤ サテンステッチ ロングアンドショートステッチの刺し方実習</p> <p>7 フランス刺繍 実習⑥ スパイダーウェブローズステッチの刺し方実習</p> <p>8 ビーズ刺繍 実習⑦ ビーズスパンコールの用具の取り扱い方の説明 ビーズ・スパンコールの刺し方説明 スパンコールをビーズで留める ビーズ平刺しの刺し方実習</p> <p>9 オリジナルの図案を刺繍する 実習⑧ フランス刺繍の基礎刺しの応用としてオリジナルの図案を考える (図案作成の資料収集のためにパソコンやスマートフォンを活用する) オリジナルの図案を刺繍する</p> <p>10 オリジナルの図案を刺繍する 実習⑨ オリジナルの図案を刺繍する</p> <p>11 オリジナルの図案を刺繍する 実習⑩ 刺繍作品の仕上げ方説明 サンプラーを完成させる</p> <p>12 クロスステッチ 実習 1 クロスステッチの布や針の説明 図案の読み方 刺し方実技の説明 基本的な刺し方の実習</p> <p>13 クロスステッチ 実習 2 クロスステッチをはめ込むポーチを制作する オリジナルの図案・配色を考える (図案作成の資料収集のためにパソコンやスマートフォンを活用する) クロスステッチ実習</p> <p>14 クロスステッチ 実習 3 クロスステッチ実習</p> <p>15 クロスステッチ 実習 4 クロスステッチの仕上げ方説明 クロスステッチをはめ込むポーチを完成させる</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基礎刺しを正しく理解した上で図案を構成し刺繍で表現できる。

事前・事後学習	事前学習：刺繍の技法や作品について調べる。配布されたプリントを読む。(20分) 事後学習：授業終了後には学習した刺繍の技法を確認し課題の完成に努める。(25分)
指導方法	サンプラーを標準として示し、基本的な刺し方・用具の取り扱い方・図案の写し方を指導する。刺繍技法は小グループに分かれ実習指導をする。 フィードバックの仕方：①実習 ②作品提出 ③採点（評価）返却 ④質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：作品の完成度を評価する。 作品80% 授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布。
参考書	
履修上の注意	授業時間内での完成を目指すが、期日までに提出できない場合は各自で時間外に実習を進めること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
佐藤賢志			
ナンバリング：F22C26			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の和装や装身具の歴史に触れながら、装飾に関わる日本工芸技術である、つまみ細工、水引などを体得する。また、日常生活や式典など、実際に自身が装着することを想定とした課題の中で、身につけた技法を取り入れたデザインを構築し、実制作まで行う。 (授業目標) ○C：それぞれのデザインを学び実践的に応用し、独自の発案と共にアウトプットできる。 ◎E：基礎技術をもとに、一貫したテーマを持ち独創的な制作と言語化できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（授業概要の説明）・和小物について 「日本の装身具の歴史」</p> <p>2 装身具技法1 「つまみ細工・とんぼ玉（レジン）①」</p> <p>3 装身具技法2 「つまみ細工・とんぼ玉（レジン）②」</p> <p>4 装身具技法3 「房飾り・水引」</p> <p>5 装身具デザイン1 「現代洋装を前提としたアクセサリーのデザインと実制作①」</p> <p>6 装身具デザイン2 「現代洋装を前提としたアクセサリーのデザインと実制作②」</p> <p>7 装身具デザイン3 「現代洋装を前提としたアクセサリーのデザインと実制作③」</p> <p>8 写真撮影とポートフォリオの制作 「ポートフォリオ素材の為の写真撮影と編集」</p> <p>9 髪飾りデザイン1 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作①」</p> <p>10 髪飾りデザイン2 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作②」</p> <p>11 髪飾りデザイン3 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作③」</p> <p>12 髪飾りデザイン4 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作④」</p> <p>13 髪飾りデザイン5 「卒業式和装を前提とした髪飾りのデザインと実制作⑤」</p> <p>14 写真撮影、プレゼンテーション構築 「プレゼンテーションの為の写真撮影とプレゼンボードの制作」</p> <p>15 プレゼンテーション 「成果物の発表とフィードバック」</p>
学習成果・到達目標・基準	○C：それぞれの技法の基礎を身に着けられる。 ◎E：自分の考えをデザインにし、形にすることができる。
事前・事後学習	事前学習：制作に必要な基礎知識の調査、及び準備。（20分） 事後学習：次授業に必要な基礎知識、及び制作等の補填確認。（25分）
指導方法	パワーポイントや映像などで基本的知識の講義を取り入れながら、制作を中心に進行する。毎時の進行状況や成果物は随時レポートする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：基礎力の定着度、デザイン発案の内容を評価。 E：制作物や展示、プレゼンテーションのクオリティと内容を評価。 課題60%、展示、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・リサーチやアーカイブ、制作などに必要な為、ノートPC、またはタブレットの持参をすること。・プリント配布があるため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング	制作、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小椋啓司			
ナンバリング：F22C27	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリーの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。基礎的なアクセサリーの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリー制作を行う。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。 (授業目標) ◎E：金属材料によるアクセサリー制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明 (実習:2~14回)</p> <p>2 シンプルデザインのリング制作 (実習:2~14回) 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作</p> <p>3 シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作</p> <p>4 ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、デザイン、原型制作</p> <p>5 ワックス原型制作 デザイン、原型制作</p> <p>6 刻印を用いたバングル制作 オリジナルのメッセージを刻印したバングルを制作</p> <p>7 リング制作応用 ワイヤーを用いたオリジナルデザインリングの制作</p> <p>8 チャームアクセサリーの制作 ロストワックス技法により鑄造された金属パーツのアクセサリーへの組み立て</p> <p>9 オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 デザインシート作成、素材集めなど</p> <p>10 オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 デザインシート作成、素材集めなど</p> <p>11 オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など</p> <p>12 オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など</p> <p>13 オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など</p> <p>14 オリジナルセットアクセサリーの制作 2アイテム以上のアクセサリーの制作 実制作 など</p> <p>15 作品講評 学生評価を加味した上で選定した優秀作品制作者によるプレゼンテーション。 展示した作品をビデオでプロジェクターへ投影し、デザインのポイントや作品のコンセプトなどを説明する。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリー制作をすることができる。
事前・事後学習	事前学習：アクセサリー専門店や展示会などで実物に触れてみる。(30分) 雑誌やインターネットなどでアクセサリーの多様なデザインを知る (30分) 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。(30分)
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。 フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアド

	バイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：それぞれの提出課題と、オリジナリティを求めて授業へ取り組む姿勢を評価する。 課題提出80%、授業姿勢20%、
テキスト	なし プリント資料を配布
参考書	各ファッション雑誌、SNSなど
履修上の注意	細やかで地味な作業もある集中力のいる実習であることを理解したうえで受講すること。 積極的な好奇心と自由な発想でもって制作に取り組むこと。 薬品や火器、その他怪我をする可能性のある工具による作業があるので、十分に注意して作業に取り組むこと。
アクティブ・ラー ニング	実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C28	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>小中高校でも金融について学ぶ時代となった今、将来は企業に就職するだけでなく、副業、起業、個人事業などワーキングスタイルは多様化していく。労働に対して報酬を受け取るという受け身の姿勢から、自分自身が経営者の視点を持ち利益創出を目指す事も求められていく社会になる。そこで自分自身の価値を最大限発揮できる仕事をするためには、ビジネスについての広く深い知識を持つ事が必要不可欠となる。この講義ではビジネスの基本となる「会社」について深く学ぶ。会社とは何か？会社の使命は何か？会社のしくみは何か？など会社を経営する視点から組織についての理解を深める。</p> <p>株式、金融、暗号資産、メタバースなど新たな時代の会社経営の知識にも触れる。</p> <p>身近なファッション、ビューティ、ウェディングなどの業界の企業を例に学びながら、自然に経営的視点を取得する事を目指す。</p> <p>(授業目標) ◎D：会社のしくみを理解し、組織図を読み解く事ができる。事業計画書や決算書などを読み解く事ができる。 ○C：企業情報から経営状態を分析したり、今後の方向性を示す事ができる。</p>
授業計画	<p>01 この授業で学べる事 経営を学ぶ事により、自分の将来の働き方について軸のある計画を立てられるようになる。経営学がもたらしてくれる恩恵について学ぶ。</p> <p>02 会社って何だろう？（オンデマンド） 会社という概念とその社会的意義。何のために会社は存在するのか？を学ぶ。</p> <p>03 企業理念は何故必要なのか？ どの企業にもある企業理念。その目的をミッション、ヴィジョン、バリューの三段階に分けて役割と具体事例を学ぶ。</p> <p>04 会社を構成する人達1 トップマネジメント、ミドルマネジメント、スタッフという3層に分けて会社に属する役割と立場を学ぶ。</p> <p>05 会社を構成する人達2（オンデマンド） 組織図を見ながらそこで働く人達がどのような役割でどのような仕事をするのか、職種別に学ぶ。</p> <p>06 人事異動と人事評価 会社に勤めると必ずしも希望する職種の仕事ができるわけではない。同時に働く場所も異動の事例が出ることもある。組織を運営するために、何故転動や異動があるのかを考える。また社員の評価はどのようにすると平等性やモチベーションがあがるのかを探る。</p> <p>07 会社の種類 よくみかける「(株)」という言葉。これが意味することは何か？4つの会社の種類とその違いを学ぶ。</p> <p>08 会社の1年 学校に学年があるように企業にも一年という営業期がある。1年を4つに分割して経営を計画していく企業ならではの1年間の動きを学ぶ。</p> <p>09 会社に入るお金、出るお金（オンデマンド） 会社を経営するためには売上利益が必要だが、会社を維持するためには必要な経費もある。入るお金、出るお金のバランスをどうとっていくか。具体的事例を通じて学ぶ。また経営に必要な事業計画書のしくみを学び、計画的な経営手法を通じて企業経営の哲学を学ぶ。</p> <p>10 決算書という答合わせ 経営が健康に営まれているかどうかを見極めるために、決算書のしくみと読み方を学ぶ。それにより、一般企業の経営状態も読み取れるようになる。</p> <p>11 メタバースと暗号資産 デジタル時代に特有なメタバースの世界観とビジネスへの応用、また資産価値としての暗号資産のしくみと経営への活用方法を学ぶ。</p> <p>12 企業経営研究1 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>13 企業経営研究2 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>14 企業経営研究3（オンデマンド） 著名な企業の経営の歴史を、授業を通じて学んだ視点から分析し、その企業の魅力を探る。</p> <p>15 経営学から学んだ事 14回の授業を通じて学んだ経営的視点が自分の生活にどのような変化を生んだのか、またその経験を今後の就職活動にどのように生かせるかを振り返る。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎D：会社のしくみを理解し、自分の就職活動に役だてる事ができる。 ○C：会社の特徴や個性を理解し、自分の適性に照らし合わせる事ができる。</p>

事前・事後学習	事前学習（分）：テキストの指定されたページを読み込み、知らない語句について調べておく（90分） 事後学習（分）：前回の授業で出た課題を行う（90分）
指導方法	就職活動で「会社」を選ぶ際に、実は会社という組織そのものについての詳しい知識がないことが多い。多様性の高い社会で働く将来のためにも、会社についての知識を高めながら、同時に会社の価値や働き方についての思考力、判断力を磨いていく。 難解に捉えられている経営学を、日常の視点に置き換えてわかりやすく指導する。 理解に欠かせないディスカッションや意見の共有などアクティブ・ラーニングを中心に経営理論が自然に身に着く手法を取り入れている。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題の提出率と内容による評価 ○C：課題の提出率と内容による評価 授業への貢献度・積極性：40% 課題：60%
テキスト	ベーシックマネジメントスタディーズ 日本ホスピタリエ協会
参考書	無し
履修上の注意	対面授業が基本だが、月1回オンデマンドで授業を行う。詳細は授業計画に記載、及び初回授業で説明をする。資料作成やグループディスカッションなど主体的な姿勢で授業に臨む学生を歓迎します。 自分の価値を最大限発揮できる仕事をを目指す人に役立つ内容です。将来、より自由によりアクティブに仕事を楽しめるようになるための基本となる知識を得ることができます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13B29	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	基礎を振り返りファッションビジネスの変遷に伴うアパレル業界の仕組みの変化を理解する。特にファッショントレンドと商品のライフサイクルの関係をマーケティング面・マーチャンダイジング面にて理解する。またアパレル会社の利益構造も理解しながら今後のファッション産業の展開を予測する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界の仕組みを知ること、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。
授業計画	<p>1 ファッション業界研究 本講義の概要説明、日本のファッション業界の歴史および仕組み、その現状について 2-8回は”ファッションビジネス [I]”教材を使用しファッションビジネスの基礎を習得する</p> <p>2 ファッションビジネス [I] 第1章について ファッションビジネスの概要について 小テスト</p> <p>3 ファッションビジネス [I] 第2章について ファッション消費と消費者行動について 小テスト</p> <p>4 ファッションビジネス [I] 第3章について アパレル産業と小売産業について 小テスト</p> <p>5 ファッションビジネス [I] 第4章について ファッションマーケティングについて 小テスト</p> <p>6 ファッションビジネス [I] 第5章について ファッションマーチャンダイジングについて 小テスト</p> <p>7 ファッションビジネス [I] 第6章について ファッション流通について 小テスト</p> <p>8 ファッションビジネス [I] 第7章について ビジネス基礎知識について 小テスト</p> <p>9 アパレルマーチャンダイジングのフロー ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて シーズントレンド商品の売れを検証 (課題)</p> <p>10 ファッションマーケティングの実務 ファッションビジネスのプレス・広告宣伝活動 ファッション雑誌タイアップページ分析 (課題)</p> <p>11 マーチャンダイジングの知識 1 SPAアパレルの年間52週のMD戦略について 年間型数表作成 (課題)</p> <p>12 マーチャンダイジングの知識 2 月度のアイテム計画とVMDについて 月度MD表作成 (計算課題)</p> <p>13 アパレル会社の収益構造 SPAアパレルの特徴及び店舗の収支計画について 月度収支計画プラン作成 (計算課題)</p> <p>14 ファッショントレンドとマーケットについて ファッショントレンドとマーケットの関係について オリジナルブランドカセットMD (課題)</p> <p>15 今後のファッション業界の展望 今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。
事前・事後学習	事前学習；ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。 課題・小テスト対策として、次回授業計画の内容を調べておく (60分)。 事後学習；実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること (120分)

指導方法	パワーポイントや画像を使用し講義形式で行う。毎回授業内での小テストの提出、および課題提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：課題・定期試験を評価する。 定期試験40%、課題30%、小テスト15%、授業、態度・貢献度15%
テキスト	ファッションビジネス3級 新版 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会 授業内で指示する。
参考書	適宜資料を配布、また参考文献に関しては、その都度指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで最新のファッションやビジネスに関する情報を得ておくこと。 また、今後のファッションビジネスの可能性と変化に興味を持つこと。 1年後期「ブランドプロデュース論」は、本科目を単位取得済みであることが履修の条件となる。 パソコン使用（パワーポイント・エクセル・ワード）
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F13B27	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	基礎を振り返りファッションビジネスの変遷に伴うアパレル業界の仕組みの変化を理解する。特にファッショントレンドと商品のライフサイクルの関係をマーケティング面・マーチャンダイジング面にて理解する。またアパレル会社の利益構造も理解しながら今後のファッション産業の展開を予測する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界の仕組みを知ること、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。
授業計画	<p>1 ファッション業界研究 本講義の概要説明、日本のファッション業界の歴史および仕組み、その現状について 2-8回は”ファッションビジネス [I]”教材を使用しファッションビジネスの基礎を習得する</p> <p>2 ファッションビジネス [I] 第1章について ファッションビジネスの概要について 小テスト</p> <p>3 ファッションビジネス [I] 第2章について ファッション消費と消費者行動について 小テスト</p> <p>4 ファッションビジネス [I] 第3章について アパレル産業と小売産業について 小テスト</p> <p>5 ファッションビジネス [I] 第4章について ファッションマーケティングについて 小テスト</p> <p>6 ファッションビジネス [I] 第5章について ファッションマーチャンダイジングについて 小テスト</p> <p>7 ファッションビジネス [I] 第6章について ファッション流通について 小テスト</p> <p>8 ファッションビジネス [I] 第7章について ビジネス基礎知識について 小テスト</p> <p>9 アパレルマーチャンダイジングのフロー ファッショントレンドと商品のライフサイクル、商品企画から生産管理の流れについて シーズントレンド商品の売れを検証 (課題)</p> <p>10 ファッションマーケティングの実務 ファッションビジネスのプレス・広告宣伝活動 ファッション雑誌タイアップページ分析 (課題)</p> <p>11 マーチャンダイジングの知識 1 SPAアパレルの年間52週のMD戦略について 年間型数表作成 (課題)</p> <p>12 マーチャンダイジングの知識 2 月度のアイテム計画とVMDについて 月度MD表作成 (計算課題)</p> <p>13 アパレル会社の収益構造 SPAアパレルの特徴及び店舗の収支計画について 月度収支計画プラン作成 (計算課題)</p> <p>14 ファッショントレンドとマーケットについて ファッショントレンドとマーケットの関係について オリジナルブランドカセットMD (課題)</p> <p>15 今後のファッション業界の展望 今後のSPAビジネス、EC、セカンドハンドウェアビジネス、個人ブランド等について</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。
事前・事後学習	事前学習；ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。 課題・小テスト対策として、次回授業計画の内容を調べておく (60分)。 事後学習；実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること (120分)

指導方法	パワーポイントや画像を使用し講義形式で行う。毎回授業内での小テストの提出、および課題提出がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：課題・定期試験を評価する。 定期試験40%、課題30%、小テスト15%授業、態度・貢献度15%
テキスト	なし 適宜資料を配布、また参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	ファッションビジネス [I] 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会 前半にて使用 授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで最新のファッションやビジネスに関する情報を得ておくこと。 また、今後のファッションビジネスの可能性と変化に興味を持つこと。 パソコン使用 (パワーポイント・エクセル・ワード)
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F13C30	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「卒業したら就職」という従来の選択肢から「卒業したら起業」という選択肢もある時代に、アントレプレナーという起業家の視点から起業について学ぶ。学生生活の身近なテーマから商品企画や販売方法などを自ら考え、ビジネスモデルを構築する。</p> <p>(授業目標) ◎A：アントレプレナーに求められる主体性を磨き、他責ではなく自己責任を負う視点からビジネスモデルを構築する事ができる。 ○C：ビジネスを成功させるために、客観的視点を持ち、冷静な分析や明確なヴィジョンを創り出す事ができる</p>
授業計画	<p>01 アントレプレナーという働き方を知る 起業するとはどういうことか？起業するのに必要な考え方は？</p> <p>02 会社を作るためにこれだけは必要 会社設立に最低限必要な物や手続きとは？</p> <p>03 売るものを考える《ワークショップ1》 会社の利益を生み出す商品。まずはどんな商品を売るのがよいのかをワークショップを通じて考える。</p> <p>04 売るものを考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、商品企画、商品製造について学ぶ。</p> <p>05 売る相手を考える《ワークショップ2》 ビジネスはターゲットを絞り込み、詳細な分析をする事が成功の基になる。自分の商品はどんな人達に向けて売りたいのかをワークショップを通じて考える。</p> <p>06 売る相手を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、ターゲットの絞り込みと特徴について学ぶ。</p> <p>07 売り方を考える《ワークショップ3》 店舗展開、ECなど商品の売り方はさまざま。資金や経験がない環境でどんな売り方があるのかをワークショップを通じて考える。</p> <p>08 売り方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、販売戦略、販売方法について学ぶ。</p> <p>09 広め方を考える《ワークショップ4》 広告やSNS発信など、自分の商品をどのようにして認知してもらうかをワークショップを通じて考える。</p> <p>10 広め方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、広告手法について学ぶ。</p> <p>11 売り続け方を考える《ワークショップ5》 ビジネス設計の時点からリピーターを想定することはビジネスの必須要素。ワークショップを通じてリピーターをどう創出するかを考える。</p> <p>12 売り続け方を考える《理論と基本知識》 前回のワークショップを振り返りながら、リピーターが生まれやすいビジネスモデルについて学ぶ。</p> <p>13 起業のドレスリハーサル1 個人又はグループで商品企画、ターゲットティング、販売戦略、広告戦略、再来のしくみというプロセスに沿って起業の青写真を作成する。</p> <p>14 起業のドレスリハーサル2 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション</p> <p>15 起業のドレスリハーサル3 個人又はグループで作成した事業計画のプレゼンテーション</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：アントレプレナーの精神を理解できる ○C：企業がどのように誕生するのかのプロセスを理解できる
事前・事後学習	事前学習(分)：テキストの指定されたページを読み込み、知らない語句を調べておく(90分) 事後学習(分)：毎回出される課題を行う(90分)
指導方法	身近な出来事をヒントにし、起業という一見難しそうな出来事を具体的事例を交えながらわかりやすく指導する。ワークショップと理論を交互に学ぶ事によってより実践的な学びができる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：課題と成果物による評価。 ○C：課題と成果物による評価 授業への貢献度・積極性：30% 成果物:30% 課題：40%

テキスト	アントレプレナーとイントラプレナーのためのスタートアップマニュアル 日本ホスピタリエ協会 必要に応じてプリント
参考書	無し
履修上の注意	将来起業やEC(イーコマース)などを考えている学生には役立つ内容です。起業には興味がなくても、起業の視点を学ぶ事により組織での仕事のレベルが上がります。資料作成やグループワークにおける発表など積極的に授業に取り組む学生を歓迎します。【関連する科目】経営学入門(1年前期) / ウエディングナビゲーション(1年前期)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F23C31	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションブランドプロデュースにおいて、アパレル業界の基礎知識を習得した上で特にSPAアパレル業態での事例を論理的に理解することを目標とする。 トレンド分析によりマーケットの変化を予測し、ブランドプロデュース業務の各段階を理解するために、簡単なポートフォリオを作成し方法論を習得する。 またブランド運営に必要な視点も養い、時代に合ったファッションブランドを立案することを目的とする。 ◎D：ファッションブランドのプロデュース手法を習得する。		
授業計画	1	ブランドプロデュースとは 本講義の概要説明、アパレルブランドプロデュースについて、アパレル基礎知識及び職種について	
	2	ファッション業界の現状 ブランドプロデュースケーススタディー、アパレル業界の仕組みについて	
	3	既存ブランド分析 ハイブランド・SPAブランド・個人ブランドなどのアパレルビジネスについて	
	4	ブランドコンセプト アパレルブランドのコンセプト設定について	
	5	ターゲット アパレルブランドのセグメンテーションとターゲティングについて	
	6	コレクションブランド分析 トレンドの流れ、コレクションブランドのトレンド分析手法の解説及びトレンドイメージマップ作成（課題）	
	7	商品企画 商品イメージに基づく商品企画の手法解説、コンセプトワークイメージマップ作成（課題）	
	8	マーチャンダイジング 主にSPAアパレルのマーチャンダイジングについて	
	9	店舗設計とVMD 販売チャネルとショップ内装プラン及びVMDについて、ショップイメージマップ作成（課題）	
	10	広告宣伝・販売促進 アパレルブランドのプレス及びプロモーションプラン活動について	
	11	ブランドのセグメント及びポジショニング オリジナルブランドでどのマーケットを狙うのかを考察しポジショニングマップ作成	
	12	オリジナルブランド企画1 オリジナルブランドのコンセプトワーク（コンセプト・ターゲット設定）作成	
	13	オリジナルブランド企画2 オリジナルブランドの商品イメージマップ作成	
	14	オリジナルブランド企画3 オリジナルブランドのスタリングプラン作成	
	15	オリジナルブランドレビュー 外部現役講師による学生オリジナルブランドの講評及び実際のオリジナルブランド運営業務内容についての講演	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッションブランドのプロデュース手法概要を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館において指定されている書籍やファッションブランドに関する知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：作成した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアをもとにアップデートすること。（90分）		
指導方法	講義内容に関連する画像やパワーポイント等を使用して、視覚的媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。 テーマ単位で理解確認のため小テスト実施や課題制作をする。 現役の専門職講師による講演等を用意しファッション業界の現状理解を促進させる。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する 定期試験40%、課題40%、授業態度・貢献度20%		

テキスト	なし 参考文献に関しては、その都度指示する。
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、ファッション大辞典、PEV、マリークレールビジュエ、VOGUE、BAZAAR、View、Wearを一読すること。 授業内PC使用（主にパワーポイント） 1年前期「ファッションビジネス論」の単位取得済みであることが本科目の履修の条件となる。 1年後期「ブランドプロデュース演習」は、本科目を単位取得済みであることが履修の条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C34	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題をあげ、解決方法を述べるができる。		
授業計画	1	ファッションビジネスの知識 ファッション産業の分類、商品計画の流れについて	
	2	ファッション小売業の構造と特徴 ファッション小売業の業態、百貨店、専門店の特徴について	
	3	SPAとセレクトショップ 企画から販売方法、組織形態の違いについて	
	4	ファッション小売業のマーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの設定について	
	5	コンセプトの策定 トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、スタイリングテーマについて	
	6	営業計画の策定 営業期、品揃え計画、販売促進計画、売場レイアウトについて	
	7	売場構成、商品陳列の基本知識 VMDにおける3つの手法、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について	
	8	販売員の業務内容と基本マナー 開店から閉店までの基本的な業務内容、接客用語、電話対応、クレーム対応と処理について	
	9	購買心理の7段階 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて	
	10	顧客管理の基本知識 顧客満足経営の重要性、固定客づくりについて	
	11	売場における計数管理 予算比、前年比、客単価、値入高と粗利益、商品回転率について	
	12	ファッション商品の知識 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて	
	13	素材の知識 素材の種類、その長所と短所、柄について	
	14	サイズ・品質表示 サイズの読み方、組成表示、取扱表示、原産国表示、品質マーク表示について	
	15	店舗調査の項目と方法 売場概略、商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースや店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。		

参考書	「ファッション販売3 ファッション販売能力検定3級公式テキスト」大沼淳著、一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行 「ファッション販売3 ファッション販売能力検定試験3級公式問題集」一般財団法人 日本ファッション教育振興協会発行
履修上の注意	日頃から店舗調査を行い、アパレル小売業の現状に触れることで、授業で学んだを知識を感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C35	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足のいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴、計数管理や売場陳列の基本を明らかにしながら、店舗運営の重要性について解説する。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題を述べるができる。
授業計画	1 流通とは何か 流通のしくみ、小売業の機能と役割について 2 店舗形態別小売業の基本的役割（1）百貨店と専門店 百貨店の課題と取り組み、専門店の種類について 3 店舗形態別小売業の基本的役割（2）量販店 チェーンストア展開によるスケールメリットについて 4 店舗形態別小売業の基本的役割（3）コンビニエンスストア 出店方法と運営上の特徴、本部と加盟店の関係について 5 組織形態別小売業の基本 レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの特徴について 6 無店舗販売の形態 訪問販売、移動販売、通信販売の特徴、020から0M0の変遷について 7 ショッピングセンターの現状と課題 商圈別分類と特徴について 8 小売業におけるマーケティング戦略 外部環境と内部資源の把握、標的市場と商圈の設定について 9 マーケティング・ミックスの構築 商品構成、価格設定、流通、販売促進について 10 戦略的な価格政策と心理的価格政策 消費者心理に基づいた価格政策について 11 計数管理（1）原価と値入と売価の関係、商品回転率と交差比率 値入高と値入率、商品回転率および日数の算出方法、交差比率について 12 計数管理（2）予算比、前年比、客単価、買上率について 日計表および営業日報に必要な数字管理について 13 商品陳列の基本知識 陳列器具と販売方法における基本陳列の種類について 14 VMDの基本 売場におけるVMDの手法について 15 売場演出の技術 店内照明の種類と役割、ディスプレイ効果を高める色彩の活用について
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業における業種と業態の特徴、店舗運営の流れを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品や店舗運営に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「販売管理」の2科目を同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②学期末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F13C36	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業における販売管理とは、事務管理から人事管理、法規、経営に関する分野まで多岐にわたる。本講義は、販売員の知識として必要な法規から経営に関する計数管理について解説していく。「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界における販売員や店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業経営に必要な人事管理、販売管理の留意点、財務諸表の見方、販売活動に関する法規の知識を修得する。
授業計画	<p>1 販売員の目的と役割 販売員と顧客の関係、クレームや返品への対応について</p> <p>2 購買心理の8段階 顧客心理と接客販売技術について</p> <p>3 顧客管理の基本的役割 顧客満足経営の基本知識、FSP（フリークエントショッパーズプログラム）について</p> <p>4 販売員の法令知識（1）小売業に関する法規 事業の許認可に関する法規、小売業の適正確保に関する法規の変遷について</p> <p>5 販売員の法令知識（2）販売活動に関する法規 割賦販売法、品質表示、景品表示法について</p> <p>6 販売員の法令知識（3）環境に関する法規 各種リサイクル法と販売店の課題について</p> <p>7 包装技術の基本 包装の種類と方法、慶弔進物の基本知識について</p> <p>8 ディスプレイ効果を高める色彩の活用、店舗照明の基本 色の持つ特性、照明による演出について</p> <p>9 POSシステム POSシステムのしくみ、販売データの活用方法について</p> <p>10 在庫管理の意義 過剰在庫の発生原因、金額および数量管理について</p> <p>11 小売業における組織の基本原則 企業における組織形態、組織の基本原則について</p> <p>12 小売業における従業員管理 職場の人事管理、人材育成とリーダーシップのあり方について</p> <p>13 損益計算書の見方 4つの費用と5つの利益、損益分岐点売上高の計算方法について</p> <p>14 貸借対照表の見方 流動比率、当座比率、固定比率、固定長期適合率、自己資本比率の計算方法について</p> <p>15 小売業におけるリスクマネジメント 防犯対策と店舗施設の保守</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：販売員に必要な法規や計数管理について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する小テスト課題、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60%、小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「販売士ハンドブック（基礎編）～リテールマーケティング（販売士）検定試験3級対応～」日本商工会議所編、株式会社キャリアック 「1回で合格！リテールマーケティング検定3級過去問題集」上岡史郎著、成美堂出版。
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「店舗運営」の2科目を同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②学期末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F23C37	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察し、現状と課題を述べることができる。
授業計画	<p>1 マーケティングとは マーケティングの歴史の変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について</p> <p>2 顧客価値と顧客満足 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係、コストパフォーマンスについて</p> <p>3 リレーションシップ・マーケティング パレートの法則、CRM（カスタマーリレーションシップマーケティング）について</p> <p>4 サービス・マーケティング サービスの特性（無形性、同時性、消滅性など）、優れたサービスの定義（SERVQUAL）について</p> <p>5 マーケティング環境の分析 SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>6 マーケティング・ミックスの重要性 STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）戦略、ペルソナ分析について</p> <p>7 価格戦略 内的参照価格、消費者心理を考慮した価格政策について</p> <p>8 流通戦略 直接流通と間接流通チャネルの特徴、店舗とネットの融合について</p> <p>9 販売促進戦略 プッシュ戦略とプル戦略の違い、値引きのネガティブ効果、景品表示法について</p> <p>10 マーケティング・コミュニケーション 広告の変遷、消費者反応プロセス、コミュニケーションのノイズについて</p> <p>11 売上動向の把握 商品回転率と交差比率を活用した利益貢献度分析の方法について</p> <p>12 経験価値マーケティング SENSE（感覚）、FEEL（喜怒哀楽）、THINK（思考）、ACT（行動）、RELATE（交流）について</p> <p>13 ブランド戦略 ブランド要素、ブランド拡張、ブランド・エクイティ（資産価値）について</p> <p>14 ラグジュアリーブランド戦略 ラグジュアリーとは何か、ラグジュアリーが持つ特性、4つの希少性について</p> <p>15 ソーシャル・マーケティング 企業の社会的責任（CSR）、コーズ・リレーテッド・マーケティングについて</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイントおよび授業内容に即した映像資料を用い、講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心掛けることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力を確認するため実施する小テスト課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、小テスト課題20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「基礎コース マーケティング」小原 博著、新世社出版
履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F13C32	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デジタル上のビジネスに対応する為、デジタル力を活かしたマーケティング企画作品を制作。人と物やサービスをどの様に繋げるかをWebやアプリを通したプログラミング的な要素で、表現する力をつける。テーマを決めグループワークを実施。共感・問題定義・アイデア創出・プロトタイプング・テストを繰り返し、デザイン思考を鍛えながらブランド力の向上を目指したマーケティングにつなげる。 「adobe XD」を使用し、webなどを制作しながらリサーチすることで、現状のビジネスを知り、新しいビジネスに繋がるきっかけや発信方法を考察する (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を活用し、コンセプトに基づく制作ができる ◎A：主体性を持ってグループで企画を進める事ができる
授業計画	<p>1 本講座とAdobeソフトについて 今後の企画内容のガイダンスとAdobeソフトについて</p> <p>2 UIとUXデザインについてとグループディスカッション ユーザー視点に立ってサービスや商品の本質的な課題・ニーズを発見しグループでの制作のコンセプトを決める</p> <p>3 ワイヤフレーム制作 リサーチを繰り返し人と物やサービスをどのように繋げればいいのかの枠組みを決め、グループでの共通認識を持つ また、作業方針を決めていく</p> <p>4 基本操作(色・形・文字) XDの基本操作を習得しワイヤフレームを元に構造のベースを設定</p> <p>5 トップページ制作 サービスやブランドの顔を作ることで全体のデザインの方向性を決めていく</p> <p>6 基本的なUIデザインのパターンとデザインの共通概念 企画に合う基本的なデザインパーツを制作しトップページを完成させる</p> <p>7 基本操作(動き) ユーザーの意識が対象に向くように動きの付け方や試行方法を習得する</p> <p>8 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる</p> <p>9 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる</p> <p>10 詳細ページ制作 ゴールである詳細のページを各自制作 試行を繰り返し、ブランドらしさであるデザインの一貫性を持たせる</p> <p>11 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する</p> <p>12 一覧ページ制作 サービスやブランドの骨格である一覧ページを制作 スタートとゴールの結びつけを表現する</p> <p>13 作品全体を通しての試行 グループ内で作品を試行し、問題発見と解決を目指す</p> <p>14 回遊 作品内でユーザーを回遊させる方法を考察し魅了するビジネスに繋げる 様々な切り口で関連する情報を見せ作品を完成させる</p> <p>15 学修成果発表 講評 プラン完成後、全員で作品を試行し、評価し合う。これからのビジネスにどのように活かせるかなど考察する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：デジタルの制作技術を活かし、伝えたいことを形にする ◎A：計画性を持ってグループで企画を進める事ができる
事前・事後学習	事前学習：普段何気なく使用しているアプリやサイトに対して、なぜ使いやすいのか、機能的な表現がどうなっていると伝わりやすいかをリサーチする。XDの使用に慣れる為基本操作動画を見て事前確認をする。(20分) 事後学習：課題で使用する画像や動画など教室ではできない撮影や素材集め(40分)
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。

	操作に遅れの出る学生が出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E: 課題と成果物による評価 A: 課題や授業への貢献度を評価 作品50%、授業態度・貢献度30%、その他課題20%
テキスト	適宜フォーマット配布
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 各自PC持参 後期「ビジュアルアート演習」のAdobeソフト使用の科目を履修する事で、よりデジタルスキルの向上を目指せる。
アクティブ・ラー ニング	実習・ディスカッション・グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F23C38	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションの「表現」や「買い方」は、この10年間で大きく変容し多様化した。「服」は脇役となり、日本のファッションビジネスはいまや変革の時期を迎えている。本講義は、ファッションスタイル視点からより豊かなライフスタイルを提案できるようになることを目的に、時代別・年代別のファッションコミュニケーション表現についてあらゆる視点から考察する。さらに、トレンド把握や今後のファッションコミュニケーション手法の変化を考察していくとともにそれを自己表現する。 (授業目標) ◎D：ファッション業界で必要となる様々なファッション表現を解説できる。
授業計画	<p>1 ファッションコミュニケーションとは 本講義の概要、ファッションとコミュニケーションの関係、流行のファッションとその主張と表現の関係について</p> <p>2 中世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 中世ヨーロッパの階級・宗教とファッション表現の関係 テーマ設定によるキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>3 近世ヨーロッパのファッションコミュニケーションの特徴 近世ヨーロッパの社会情勢とファッション表現の関係 近世ヨーロッパのファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>4 1940-50年代のファッションコミュニケーションの特徴 戦後の消費価値観の変化と10人1色の時代のファッション表現 50年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>5 60年代のファッションコミュニケーションの特徴 60年代ライフスタイルのファッション表現 60年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>6 70年代のファッションコミュニケーションの特徴 70年代ライフスタイルのファッション表現 70年代ファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>7 80年代のファッションコミュニケーションの特徴 ライフスタイル啓蒙による10人10色への変化とファッション表現 80年代日本独自のファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>8 90年代のファッションコミュニケーションの特徴 ストリートファッション台頭による1人10色への変化とファッション表現 90年代ストリートファッションのキーワードとイメージマップ作成 (課題)</p> <p>9 近未来のファッションコミュニケーション予測 将来の生活環境変化予測 2050年頃のライフスタイルキーワードと未来考察 (課題)</p> <p>10 ノンバーバルコミュニケーション ノンバーバルコミュニケーションの役割について 自分スタイルでのコミュニケーション ファッションイメージマップ作成 (課題)</p> <p>11 世代別比較 マーケティングコミュニケーションの手法、世代別コミュニケーション・ミレニアルとZ世代の比較 Z世代のスタイルイメージマップ作成 (課題)</p> <p>12 ファッションスタイルのPR表現 ライフスタイルや生き様からくるファッションスタイルについて そのスタイルイメージのPRツール作成 (課題)</p> <p>13 セグメンテーション セグメンテーションによるターゲティング及びポジショニングの関係 (STP) 今後のファッション業界の変化予想 (課題)</p> <p>14 トレンドから来るファッションコミュニケーション 社会現象に基づくトレンド予測について ファッショントレンド予測シナリオの検証 (課題)</p> <p>15 D to C の今後のビジネス展開 B to B, B to C そしてD to C のビジネス形態・コミュニケーション手法および今後の展開と変貌 ストーリーマーケティングに関して (課題)</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション業界に影響を及ぼした様々なファッション表現を理解する。
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得

	る。授業内課題対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。授業内での課題およびアンケート提出がある。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：最終課題・授業内課題を評価する。 最終課題40%、授業内課題40%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 適宜資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。 授業内・課題作成にてPC使用（主にパワーポイント・ワード）
アクティブ・ラー ニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
安東徳子			
ナンバリング：F14C39	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>漠然としたウエディング業界について、深く理解することができるようになる、ウエディング業界のナビゲーター、案内役としての位置づけの授業。ウエディングの仕事に携わるために必要な仕事の哲学や、ウエディング独特のホスピタリティなどの基本的姿勢、仕事に欠かせない共感力コミュニケーション、および業界のしくみ、業種や職種など、最新の情報を学ぶことができる。リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。</p>
授業計画	<p>1 ウエディングナビ ウエディングの意味価値編 結婚式とパーティの必要性を儀式文化の本質を通じて理解し、自分の言葉でその価値を表現する手法を会得する。</p> <p>2 ウエディングナビ 歴史編 ウエディングビジネスの歴史を日本の第二次世界大戦後以降に絞って学ぶ。日本の近代史とウエディングビジネスの関連性を知る。</p> <p>3 ウエディングナビ ウエディングのスタイル編 ウエディングセレモニーとレセプションの代表的なスタイルを学びそれぞれの特徴を知る。</p> <p>4 ウエディングナビ ハード編 ホテル、専門式場、ゲストハウス、レストランなど業態別のハード(建物)の特徴や魅力について学ぶ。</p> <p>5 ウエディングナビ マーケティングと集客ビジネス編 特殊な構造を持つウエディングマーケットについて学び、同時にSNS等を駆使した集客手法を知る。</p> <p>6 ウエディングお仕事ナビ ウエディングプランナーとドレススタイリスト ウエディングの二大職業と言われるウエディングプランナーとドレススタイリストの仕事内容とその魅力を完全ナビ。</p> <p>7 ウエディングお仕事ナビ バンケットキャプテンと料飲サービス カップルが長い時間をかけて準備したウエディングの当日を完璧に創り上げるバンケットキャプテンや料飲サービスの仕事内容とその魅力を完全ナビ。</p> <p>8 ゲストによるナビゲーション ウエディングプランナーを知る 現在もフリーウエディングプランナーとして活躍中の恵実樹氏にウエディングプランナーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする</p> <p>9 ウエディングお仕事ナビ ブライダルビューティ ブライダルヘアメイク、エステティシャン、ネイリスト、ジュエリーアドバイザー、フローリストなどブライダルビューティに関わる仕事の内容と特徴を完全ナビ。</p> <p>10 ゲストによるナビゲーション ドレススタイリストを知る 現在も現役のドレススタイリストとして活躍中の白井みさと氏にドレススタイリストになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。</p> <p>11 ウエディングお仕事ナビ フォトグラファーとビデオグラファー 女性の人気が高まりつつある人気職業ウエディングフォトグラファーとビデオグラファーの仕事の内容と魅力を完全ナビ。</p> <p>12 ウエディングお仕事ナビ ウエディングのさまざまな仕事 サウンド&ライトニングプランナー、司会者、WEBデザイナー、ウエディングパフォーマーなどウエディングを創り上げるさまざまな特殊な職業の仕事の内容と魅力を完全ナビ。</p> <p>13 ゲストによるナビゲーション フォトグラファーを知る 国内外で大活躍中の人気ウエディングフォトグラファー加藤ゆき氏にフォトグラファーになるまでの経緯と仕事の魅力をお聴きする。</p> <p>14 ウエディングナビ 世界のウエディング編 海外ウエディングとリゾートウエディングの現状について学びその仕事の内容と魅力を完全ナビ。</p> <p>15 ウエディングナビ キャリアデザイン ウエディング業界でしなやかにキャリアをアップしていくためのキャリアデザインの事例を提示し、自分自身のキャリアデザインを描いてみる</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる ◎D：ウエディングビジネスの種別を説明することができる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)</p>

指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C:レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 D:授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50%、授業への貢献度20%、質問シート10%、お礼状10%、リーディングシート10%
テキスト	ブライダルのお仕事2023ウエディングジョブ
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F24C40	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。		
授業計画	1	ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢	
	2	結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ	
	3	結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ	
	4	キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	5	神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	6	人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	7	人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える	
	8	コンセプト立案 グループワーク 1 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る	
	9	進行の決定 グループワーク 2 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPより拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る (音楽演出手法を学ぶ)	
	10	進行の決定 グループワーク 3 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る	
	11	進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する	
	12	進行の確認とリハーサル グループワーク 5 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする	
	13	進行の確認とリハーサル グループワーク 6 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	14	進行の確認とリハーサル グループワーク 7 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	15	模擬結婚式 (夏期休暇中) ゲスト講師：赤星講師・印南講師) (グループワーク、実習、プレゼンテーション) (スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施	
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイディアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)		
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式。		

	<p>また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。</p> <p>第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。</p> <p>フィードバックの方法：ワークシートにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度</p> <p>模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20% 模擬結婚式実施貢献度20% 振り返りシート20% ミニテスト20%</p>
テキスト	<p>究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会</p>
参考書	<p>究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会</p>
履修上の注意	<p>夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディング ナビゲーション」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目</p>
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク、実習、プレゼンテーション</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
ナンバリング：F14C41	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。特に花嫁のインナービューティに関わる視点から学習し、挙式までのさまざまなビューティのプログラムを習得し、花嫁のトータルコーディネイトが企画立案できるように身につける。 （授業目標）花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、エステティック、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身に付ける。 ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的な花嫁のウエディングをビューティの視点で企画提案ができる。
授業計画	1 ウエディングビューティについての考え方を学ぶ（意識調査） ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法を得る。 2 婚装衣装の基礎知識（意識調査） 国内外の婚装衣装の歴史と衣装の基礎知識を学ぶ。また、コーディネート手法についても触れる。 3 招待客の装い（意識調査） ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る。また、新郎の衣装についても触れる。 4 ブライダルスタイリストという仕事（意識調査） ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法を得る。 5 ブライズビューティプログラム①インナービューティ（意識調査） インナービューティの考え方を習得し、花嫁の挙式までのビューティプログラムについて基礎知識を得る。 6 ブライズビューティプログラム②ブライダルエステのメニュー（意識調査） ブライダルエステのメニューについて基礎知識を得る。また、挙式までのプログラムの考案ができるようになる。 7 ブライズビューティプログラム③ビューティスケジュール（意識調査） 花嫁のビューティスケジュールについてエステティック、ヘアメイク、ネイルの組み込み方について知識を得る。また、ヘアメイク、ネイルのコーディネートにも触れる。 8 ブライズビューティプログラム④ビューティエクササイズ（意識調査） ビューティエクササイズとして運動方法の手法を得る。また、花嫁の悩みに応じたアドバイスが出来るようになる。 9 ブライズビューティプログラム⑤ボディメイク(補正下着)（意識調査） 花嫁のインナーウェアについての基礎知識を得る。ドレス別に応じた使用事例にも触れる。 10 ブライズビューティプログラム⑥ニュートリション(栄養)（意識調査） ビューティに関わる食生活についての基礎知識を得る。美容や健康に必要な食品や摂取方法についても触れる。 11 ブライズビューティプログラム⑦モチベーション（意識調査） ブライズビューティを継続するための花嫁心理について基礎知識を得る。環境変化に応じた心理変化や挙式前の花嫁心理に触れ、カウンセリングのための心構えの手法を知る。 12 ブライズビューティプログラム⑧まとめ（意識調査） ブライズビューティプログラム①回から⑦回までのまとめとして自身のインナービューティプログラムを作成し、実際に自身で体感できる目標を設定する。また、コンセプト事例に沿った花嫁のビューティプログラムを考案する。 13 体型別ドレス選び（意識調査） 花嫁の体型別ドレス選びについて基礎知識を得る。また、ドレス小物合わせについても触れ、ヘアメイクやネイルについてもトータルでコーディネートする手法を知る。 14 ブライズビューティカンパニー①（グループワーク、プレゼンテーション）（意識調査） ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する。 15 ブライズビューティカンパニー②（グループワーク、プレゼンテーション）（意識調査） ドレス企業研究をした内容をグループごとに発表する。各企業ごとにドレスデザインについて研究し、ヘアメイク、ネイルなどのトータルコーディネートについてもプレゼンテーションする。

見学者は、フォーマットにそってプレゼンテーションについて評価する	
学習成果・到達目標・基準	○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ウエディング企業をリサーチする視点を持てる。 ◎E：花嫁の希望に沿ったウエディングビューティのトータルコーディネートを企画提案できる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(30分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(60分)
指導方法	第1回から第13回まではパワーポイントを使った講義形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第14回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのプライズカルテを使用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：新郎新婦の衣裳、およびウエディングコスチューム企業についての知識を持っているか。 E：コンセプトに沿ったウエディングビューティをトータルコーディネートし提案することができるかを評価する。 授業への貢献度30%、プレゼンテーション30%、課題提出30%、ミニテスト10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会(前期に購入した方は不要) ・プリント配布 プライズカルテ ・パワーポイントフォーマット配布 プレゼンテーションのプロセス
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングナビゲーション」「ウエディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F24C42			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本科目はドレススタイリストに必要なスキル修得を目指す授業である。服飾芸術科ならではの視点から「ドレス」を多角的に学修する。婚礼衣装の歴史から始まり、ドレスの着装方法、小物の合わせ方などスタイリングに必要な知識を修得し、新郎、新婦のトータルコーディネートを企画立案できるようにする。またドレスメンテナンスからドレスのセールスポイントなどドレススタイリストとして活躍するための知識を幅広く学修する。</p> <p>(授業目標) ◎D：新郎・新婦の希望に沿った幅広いコーディネート案を企画、提案できる。</p>
授業計画	<p>1 ドレスの歴史（1） 服飾芸術の視点からみた西洋のドレスの歴史</p> <p>2 ドレスの歴史（2） 儀式文化における衣装の意味</p> <p>3 ドレスの歴史（3） 近代のウエディングドレスの歴史と知識</p> <p>4 ドレス選択（1） 体型別ドレス選びの基本</p> <p>5 ドレス選択（2） ウエディングドレス装飾品（アクセサリ）の選択</p> <p>6 ドレス選択（3） ウエディングドレス装飾品（ブーケ）の選択</p> <p>7 ドレスフィッティング（1） フィッティングの基本知識</p> <p>8 ドレスフィッティング（2） 美しく着こなすためのフィッティングテクニック</p> <p>9 ドレスメンテナンス お直し方法の基礎知識</p> <p>10 ドレスセールス（1） ドレスセールスの基本知識</p> <p>11 ドレスセールス（2） ドレスセールスのテクニックポイント</p> <p>12 ドレスショープロデュース（1） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（1）</p> <p>13 ドレスショープロデュース（2） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（2）</p> <p>14 ドレスショープロデュース（3） ドレスの見せ方をショー形式で学修する（3）</p> <p>15 ドレスショープロデュース（4） 集大成としてプレゼンテーションを行う</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：新郎・新婦の希望に沿った幅広いコーディネート案を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。（30分） 事後学習：授業内での未知のワードについて、まとめのノートを作成する。（60分）
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、ウエディング衣装に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業への貢献度、課題、授業内小テストを評価する。 小テスト40%、課題提出30%、授業への貢献度30%、
テキスト	ドレススタイリストのためのトークスクリプト 日本ホスピタリエ協会 必要に応じてプリント
参考書	

履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングナビゲーション」「ウエディングセレモニー」「ウエディングビューティデザイン」を履修することが望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
鈴木はるみ			
ナンバリング：F24C43	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランニングに必要な①傾聴、②企画、③提案を基本にした23段階の理論（23-Step）を学び、あらゆるカップルに対し、コンセプトメイクの手法を修得する。後半のケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 ◎C：①傾聴、②立案、③提案の順序に沿ってコンセプトを導き出し、ウエディングのプランニングができる。 ○D：ウエディングのプランニングの23段階の理論（23-Step）を正しく説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プランニングとは？（理解の確認：Google Classroom） 演出の基本的概念と演出に使われる用語の意味を理解する。 2. プランニングの23-stepメソッド（理解の確認：Google Classroom） 演出のための23段階の理論（23-Step）にわたるメソッドのしくみを理解する。 3. コンセプトメイク1（理解の確認：Google Classroom） コンセプトの概念とコンセプトメイクの手法を学ぶ。 4. コンセプトメイク2（グループワーク、実習） 事例に沿ってコンセプトメイクについての理解を深める。 5. ログラインとテーマ（グループワーク、実習） ログラインとテーマの概念学び、事例分析をする。 6. コンセプトストーリーメイク（理解の確認：Google Classroom） コンセプトストーリーの概念を理解し、コンセプトメイクの全体像を把握する。 7. アイテムへの落とし込み（理解の確認：Google Classroom）（グループワーク、実習） コンセプトを各アイテムに落とし込む手法を学ぶ。 8. プランニングに必要なアウトプットフォーマット（理解の確認：Google Classroom）（グループワーク、実習） 演出の現場で使われるフォーマットの種類と使い方を学ぶ。 9. レイアウト手法（理解の確認：Google Classroom）（実習） レイアウトの基本とフォーマットへの落とし込み手法を学ぶ。 10. スクリプトの書き方（理解の確認：Google Classroom）（グループワーク、実習） アイテムの選定、レイアウトの確定に沿ったスクリプトの書き方を学ぶ。 11. 音楽・照明・映像の演出手法（理解の確認：Google Classroom） 音楽、照明、映像という時間軸演出の手法を演出機器の知識とともに学ぶ。 12. ケーススタディ①（グループワーク、実習） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。 13. ケーススタディ①（グループワーク、実習、プレゼンテーション） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。 14. ケーススタディ②（グループワーク、実習） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。 15. ケーススタディ②（グループワーク、実習、プレゼンテーション） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎C：提示されたコンセプトに沿ってプランニングをすることができる。 ○D：ウエディングのプランニングシート23段階の理論（23-Step）の概要を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業の内容を復習のうえ、専門用語などをまとめる。（30分程度） 事後学習：配布された課題プリントに取り組む。学んだ用語を用語帳にまとめる。（90分程度） 興味を持った「CM・広告」「商品名・ネーミング」などを選び、興味を持った理由をまとめる。（60分程度）
指導方法	プランニングの基礎となる23段階の理論（23-Step）についての講義。パワーポイントを使用して理論を学ぶ。グループワークや課題に対してのフィードバックを授業内で行い、インタラクティブな授業を行う。 宿題・課題を提示し、理解を深める。 後半はケーススタディを導入し、理解した理論を基にウエディングのプランニングを行う。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	定期試験30%：23-Stepの理論に基づいて、具体的なウエディングプランニングを行う (C：示されたケーススタディにふさわしいコンセプトを選ぶことができるか評価。) レポート40%：提示した宿題・課題についての理解 (D：宿題・課題の意図を理解したうえでレポートを作成しているか評価。) 授業態度・授業への貢献度30%：グループワークなどへの積極性
テキスト	書名：究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方、著者：安東徳子、出版社：コスモ21、出版年：2017年 書名：ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード 発行：B I A公益社団法人日本ブライダル文化振興協会、出版年：2018年 (1年次に「ブライダルコーディネーターテキストスタンダード」を購入した方は不要)
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングレセプション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション

講義科目名称： ウエディング ビジュアルプレゼンテーション 授業コード： 1141
論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：越智亮二）			
ナンバリング：F24C40	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ウエディングビジネスにおいて営業や集客のためのビジュアルデザイン技術や広報する技術は大変重要である。企業のHP、SNS、ロコミ等のメディアや情報ツールの比較検討やSWOT分析を通じて広報の重要性とビジュアルデザインの基本を学ぶ。また、実務の専門家による映像、写真、ペーパーアイテム、アーキテクチャー（建築）、カラージュ、Webメディア、グラフィックデザインなどの授業構成からウエディングに係るビジュアルデザインの理論と技術を修得する。</p> <p>（授業目標） ◎D：現代のウエディングビジネスにおける営業活動や集客のためのビジュアルデザイン技術の種類とその効果を理解する。 ○E：ビジュアル表現ツールを活用し、伝えるためのメディアデザインをすることができる。</p>		
授業計画	1	ウエディングのビジュアルデザインについて<ガイダンス> 現代のウエディング現場においてビジュアルデザインの必要性を理解し、活用事例で理解を深める。	
	2	webメディアデザインの基本① 集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法を学ぶ。	
	3	ウエディングフォト① ウエディングフォトの基本を学ぶ。	
	4	ウエディングフォト② データの活用手法を学ぶ（web、アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等）。	
	5	webメディアデザインの基本② 最新のHPメディアと今後の流れとSNSメディアの具体的活用法と今後の流れ（色・フォント・デザイン）を学ぶ。	
	6	ウエディングムービー① ウエディングムービーの基本を学ぶ。	
	7	ウエディングムービー② データの活用手法を学ぶ（web、披露宴映像演出、PV等）。	
	8	ウエディングカラージュの手法と活用 カラージュで表現する手法とその活用方法を学びその価値を理解する。	
	9	ウエディングアーキテクチャー（建築） ウエディングにおける建築デザインの手法とプレゼンテーション手法を学ぶ。	
	10	ウエディングペーパービジュアルデザイン ウエディングのペーパーアイテムの種類とそのデザイン手法を学ぶ。	
	11	ウエディングwebデザインの基本① 多様化してきた顧客と使用するデバイス。そんな現代のウエディングwebデザインの基本を学ぶ。	
	12	ウエディングwebデザインの基本② ウエディングデザインにおけるフォントの選択、図表の表現方法を学ぶ。	
	13	多様化する顧客を理解したビジュアルデザイン ユニバーサラーデザインの意味とその価値について学ぶ。	
	14	効果的なプレゼンテーション パワーポイントを活用し効果的なウエディングプレゼンテーションを学ぶ。	
	15	まとめとデモンストレーション 各メディアを活かしたトータルプレゼンテーションのデモを通じてヴィジュアルデザインの全容を理解する。	
学習成果・到達目標・基準	◎D：修得したウエディングのビジュアルデザイン専門知識を用いて、自らが学んだ内容を論理的に説明することができる。 ○E：習得したウエディングのビジュアルデザイン専門知識を用い、状況にふさわしい手段で相手に伝わるプレゼンテーション資料を作成できる。		
事前・事後学習	事前学習：Classroom実習ノート（事前学習）に沿って課題に取り組む（90分） 事後学習：Classroom実習ノート（事後学習）のワークページを必ず完成させておく。（90分）		
指導方法	高い専門性をもつゲスト講師を招き、時代にマッチした知識と技術を合わせて学ぶ。Classroom実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。毎授業ごとに課題を定時しClassroom実習ノートに提出 フィードバックの方法① 事前課題を提示 ②レポート提出（学生） ③指摘事項を記入し返却 ④再提出		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：授業内のワークで課題に相応しい表現ができること。 E：ウェディングに相応しいビジュアル表現ツールを活用した資料の作成方法を理解しているか。 定期試験50%、授業内のワークで作成した制作物30%、Classroom実習ノート提出状況と授業への貢献度20%
テキスト	無し
参考書	
履修上の注意	履修者は、パワーポイントの基本操作が出来ることが望ましい。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
ナンバリング：F34C45	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>これまで修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬挙式に続き、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行うことを通じて授業目標を達成する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルな視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し実施することができる。</p> <p>○E：プランニングの23-stepに基づき、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。</p>
授業計画	<p>1 セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。</p> <p>2 パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。</p> <p>3 ウエディングメニューとビバレッジ ウエディングメニューとビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。</p> <p>4 ウエディングケーキと引き出物・引き菓子 ウエディングケーキの歴史や演出に使う場合の方法やその演出効果、引き出物に関する考えかたや種類、そして引き菓子やプチギフトの種類を学ぶ。パーティのコンセプトや新郎新婦の特徴に合わせてのセレクトの仕方を学ぶ</p> <p>5 レセプションの進行 レセプションにおける効果的な演出例などを含みその進行とスクリプト作成の復習</p> <p>6 サービスコンセプトとオペレーション レセプションにおけるサービスコンセプトの考え方とそのオペレーションの種類について学び、模擬披露宴の場合のシュミレーションを行う</p> <p>7 ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレーイングを通じて体得する</p> <p>8 23段階の理論 (23-Step) に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論 (23-Step) に基づきコンセプトメイクの実習をする。</p> <p>9 レセプション実習① (グループワーク、実習) (スマートフォン) カップルデータ (ペルソナ) に基づき、コンセプトメイクを行う。この段階で花嫁・プランナー・司会・Food&beverage・会場装飾・司会・ブライズメイズなど、担当を決定し、その担当に分かれてグループワークを行う。</p> <p>10 レセプション実習② (グループワーク、実習) (スマートフォン) テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み、自分の担当する役割の中でどのようにそれらを表現するかを個人ワークおよび並行してグループワークを行う</p> <p>11 レセプション実習③ (グループワーク、実習) (スマートフォン) ウエディングビューティプラン、ウエディングのテーマなどに合わせた衣装やヘアメイクの検討、ひいては新郎の衣装を外部会社に依頼するための資料制作</p> <p>12 レセプション実習④ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 実施会場の決定とその場所のレイアウトや装飾やテーブルコーディネートを外部装花会社とウエディングメニューやケーキの相談を外部ケータリング会社と外部の会社担当と打ち合わせを行う</p> <p>13 レセプション実習⑤ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 進行表とスクリプトの作成および本番の各役割の動き方のオペレーションプランを考える</p> <p>14 レセプション実習⑥ (グループワーク、実習) (スマートフォン) オペレーションプランに基づいたシュミレーション (リハーサルを行う)</p> <p>15 模擬披露宴 (グループワーク、プレゼンテーション) (スマートフォン) 模擬披露宴の準備、本番、片付け</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任もってやり遂げることができる。</p> <p>○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。(30分)</p> <p>事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。(60分)</p>
指導方法	<p>これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬挙式にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する</p>

	なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	A:主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E:コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%
テキスト	①ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会(1年次に購入した方は不要) ②究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21(1年次に購入した方は不要) ③ウエディング演出の23段階(23-Step) ④セレモニー実習ノート ⑤世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングナビゲーション」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
ナンバリング：F14C46			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>着方の練習を重ね段階に合わせ帯結びを学ぶ。浴衣の着方、半幅帯の帯結びの技術を習得し、帯結びは基礎技術から創作まで行う。 浴衣や小物についても理解を深め、習得した技術を活かし楽しめることを目指す。</p> <p>(授業目標) ◎E：浴衣が正確に美しく着られ、オリジナルの帯結びができる。</p>
授業計画	<p>1 きものの基礎知識① 授業概要 授業に必要な浴衣・帯・小物などについて説明</p> <p>2 きものの基礎知識② きもの名称などについて説明 各自の小物の確認、浴衣のたたみ方</p> <p>3 きものの基礎知識③ 浴衣・小物アイロン掛け 浴衣のたたみ方</p> <p>4 浴衣の着方① 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>5 浴衣の着方② 着方の練習、浴衣のたたみ方</p> <p>6 浴衣の着方・半幅帯結び① 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>7 浴衣の着方・半幅帯結び② 着方と帯結び『リボン結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>8 レベルチェック 着方の技術レベルと浴衣のたたみ方を確認する</p> <p>9 浴衣の着方・半幅帯結び① 着方と帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>10 浴衣の着方・半幅帯結び② 着方と帯結び『蝶々結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>11 浴衣の着方・半幅帯結び 着方と帯結び『蝶々結び応用編』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>12 浴衣の着方・半幅帯結び 着方と帯結び『つのだし風結び』の練習 浴衣のたたみ方</p> <p>13 レベルチェックと創作帯① 着方の技術が目標レベルに達しているかを確認する これまで習得した技術を活かし、オリジナルの帯結びを考える</p> <p>14 レベルチェックと創作帯② 帯結びの技術が目標レベルに達しているかを確認する これまで習得した技術を活かし、オリジナルの帯結びを考える</p> <p>15 半幅帯の創作発表 創作帯の発表と講評をする</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：基本の帯結びをしめ浴衣を着ることができる。
事前・事後学習	事前学習：日頃からきものや浴衣に関心を持ち、雑誌等で多くの情報を得る。(20分程度) 事後学習：Classroomの資料を活用し、授業で学んだ技術を復習する。(40分程度)
指導方法	マネキンや動画、パワーポイントなどを使用し、きものに関する基礎知識と着方の手順について説明を行う。一斉に演習に入るが、個々の技術レベルに合わせ指導をする。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E:レベルチェックと作品発表で評価する。 レベルチェック70%、作品発表10%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリント配布
参考書	なし
履修上の注意	第1回目の授業で、浴衣から小物まで各自用意する物の説明をする。 注意事項 半幅帯：作り帯は使用不可 浴衣のサイズ：自分にあったものを用意すること
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：F15C47	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識を学び、自分自身に必要なケアについて考えます。かけがえのない自分を日々慈しみ、心を満たす美容の力を理解し、幅広いビューティ分野での活躍を目指します。「日本化粧品検定2級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>◎D：知識・理解 日常的な美容法に関する一般的な知識を身につける 自分自身にあった美容法について理解する</p>		
授業計画	1	セルフビューティとは(1) 本講義の概要	
	2	セルフビューティとは(2) 人の美しさと美容	
	3	身近な美容一般知識(1) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ	
	4	身近な美容一般知識(2) まちがいがちな美容知識をチェック スキンケア、ヘアケア、メイクアップ 化粧品検定3級試験	
	5	皮膚・肌の基礎知識 皮膚の構造や機能	
	6	メイクアップの基本テクニック(1) 一般的なメイクアップ手順と化粧品の目的	
	7	メイクアップの基本テクニック(2) 一般的なメイクアップ手順と化粧品の目的	
	8	メイクアップの基本テクニック(3) 一般的なメイクアップ手順と化粧品の目的	
	9	肌の手入れと正しい知識(1) 肌タイプと見分け方 肌悩みの原因とお手入れ	
	10	肌の手入れと正しい知識(2) 肌を劣化させるさまざまな要因 紫外線が肌に与える影響	
	11	美肌・美ボディ生活を送るには 効果的なマッサージの必要性と方法 美しい肌を作る生活習慣	
	12	ヘアケアの基礎知識 髪と状態にあったお手入れ	
	13	化粧品の基礎知識 化粧品とは 成分やルール	
	14	女性の身体 身体の特徴と変化	
	15	自分自身の美しさ 自分の考える美しさと美容法	
学習成果・到達目標・基準	◎D：スキンケア、メイクアップなど一般的な美容に関する基礎知識を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキスト参考に課題に取り組む。(90分) 事後学習：講義中に紹介のあった内容を参考に、自分に合った美容法について調べる。(90分)		
指導方法	美容に関する情報を、Webサイト、パワーポイントなどの資料を用い、講義形式で行う。 授業中にスマートフォン、パソコンを用いた課題提出や宿題がある。 フィードバックは授業中、Google classroomにて実施する。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	定期試験30%、課題40%、授業態度・貢献度30% 授業内で課題や小テストを実施する。 課題について調べたり、美容法を実践しレポートをまとめる。
テキスト	「日本化粧品検定協会 2・3級対策テキスト」 著者 小西さやか 発行所 株式会社 主婦の友社 出版年 2017年6月20日第2版第5刷発行
参考書	日本化粧品検定協会1級対策テキスト JMAセルフメイク検定公式テキスト 一般社団法人JMA
履修上の注意	パソコンを毎回持参すること。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
久保田カオリ			
ナンバリング：F15C48	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。客観的な視点から顔を分析しメイクプランを立てられるようにする。</p> <p>前半はメイクアップのそれぞれの基本的な技術を修得し、自分の顔で表現できるようにする。</p> <p>後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、それぞれのイメージメイクが表現できるようにする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D:メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。</p> <p>○E:イメージと現状との違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス (実習：1～15回) 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、使用する道具についてメイクアップの効果と目的を考える</p> <p>2 スキンケアと美しい肌とは 皮膚の基礎知識とスキントypes・肌トラブルの原因について理解する 正しいスキンケア方法を習得する (マッサージで健やかな肌を育てる)</p> <p>3 ベースメイクのテクニック 肌色知識とトラブルカバーで美しい肌を作る コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する</p> <p>4 チーク・ハイライト・シェーディングのテクニック 骨格の把握と立体を理解する チーク・ハイライト・シェーディングを実習する</p> <p>5 アイブロウのテクニック 基本のバランスと形・色を理解する ペンシルとパウダーで自然な眉を実習する</p> <p>6 アイメイクのテクニック 目元の観察と形・バランスを理解する 基本のアイシャドウ・アイライン・マスカラを実習する</p> <p>7 リップのテクニック リップバランスと形・色による印象を理解する 基本の塗り方を実習する</p> <p>8 トータルバランスメイク メイクの強弱、バランスを考えたトータルメイクを実習する トレンドを取り入れたベーシックな「フレンチ・シック」を表現する</p> <p>9 顔のプロポーションと「印象分析」 自分の顔の特徴を客観的に分析し、インプレッションマップに基づいた印象タイプを理解する</p> <p>10 印象表現メイク「キュート」の理論とテクニック キュートメイクの理論を学び実習する</p> <p>11 印象表現メイク「フレッシュ」の理論とテクニック フレッシュメイクの理論を学び実習する</p> <p>12 印象表現メイク「エレガント」の理論とテクニック エレガントメイクの理論を学び実習する</p> <p>13 印象表現メイク「クール」の理論とテクニック クールメイクの理論を学び実習する</p> <p>14 印象分析によるイメージチェンジメイク① 自身の顔分析を行い、現状とは異なるイメージへのチェンジメイクを考え、デザイン画を制作する (デザイン画の提出)</p> <p>15 印象分析によるイメージチェンジ② デザイン画を元に、自身の顔でトータルにチェンジメイクを表現する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D:メイクアップに必要な基礎知識を説明できる。</p> <p>○E:メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分)</p> <p>事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)</p>
指導方法	<p>・技術解説とデモンストレーションを行い、実際にセルフでメイクアップ実習を行う。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom にセルフメイクの写真提出⇒授業後におけるコメントへの</p>

	<p>質疑対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識テストと技術テストを実施する。 ⇒知識テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ⇒技術テスト結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応 ・メイクアップデザインの課題を実施する。 ⇒授業内でアドバイスを行う⇒Google Classroom に課題結果を返却⇒授業後におけるコメントへの質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>○D:メイクに必要な基礎知識に関する筆記テストを行い評価する。 ◎E:トータルメイクアップの実技試験を行い評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%</p>
テキスト	JMAセルフメイク検定公式テキストメイク検定
参考書	
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「セルフビューティ論」を履修することが望ましい。 ・実習はご自身の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 ・メイクの技術チェックや情報共有のため、人前でノーメイクもしくはメイクした状態でアドバイスや評価を受けることがあります。 ・実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 ・メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 ・授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：本田真理）			
ナンバリング：F15C48	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。客観的な視点から顔を分析し、メイクアップを日常に取り入れるようにする。前半はメイクアップのそれぞれの基本的な方法を修得し、自分の顔でバランスメイクが表現できるようにする。後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、自分の顔でそれぞれのイメージメイクが表現できるようにする。</p> <p>また、「JMAセルフメイク検定」に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>（授業目標）</p> <p>○D：メイクアップに必要な基礎知識を理解できる。</p> <p>◎E：イメージと現状との違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。</p>
授業計画	<p>1 化粧の心理効果と顔分析 授業内容ガイダンス、実習に必要なメイク道具についての説明 自己実現のためのメイクとそれに必要な客観的理解のための分析ワーク</p> <p>2 スキンケア理論とテクニック 皮膚の基礎知識からわかるスキントypesと肌トラブル 正しいスキンケアの方法を実習する</p> <p>3 ベースメイク理論とテクニック 肌色知識と必要な色彩の理解、メイクによる肌トラブル対応知識 コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダーを実習する</p> <p>4 チーク・ハイライト・ローライトの効果と顔分析・修整テクニック 骨格の把握と立体の理解 顔分析に応じたチーク・ハイライト・ローライトを実習する</p> <p>5 アイブロウの錯覚効果とテクニック 基本バランスと毛流の理解、錯覚によるアイブロウバリエーションの理解 ペンシルとパウダーで自然なアイブロウを実習する</p> <p>6 アイメイクの演出効果とテクニック 目元の立体と色・形の効果の理解 基本のアイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラを実習する</p> <p>7 リップの血色効果とテクニック 基本バランスとバリエーションによる修整の理解 パーツ分析に応じたリップを実習する</p> <p>8 バランスメイクトータルテクニック 顔分析に応じた修整をトータルメイクで表現 好印象を持たれるバランスメイクを実習する</p> <p>9 イメージメイク理論と強弱理論 色・形・質感によるイメージ表現と強弱によるポイントメイクの比重を理解 イメージメイク・ワード分類ワーク</p> <p>10 キュートメイク理論とテクニック 色彩によるイメージの理解、目と目の間隔修整の理解 キュートメイクを実習する</p> <p>11 フレッシュメイク理論とテクニック 質感によるイメージの理解、線の効果（直線）の理解 フレッシュメイクを実習する</p> <p>12 エレガントメイク理論とテクニック 形によるイメージの理解、線の効果（曲線）の理解 エレガントメイクを実習する</p> <p>13 クールメイク理論とテクニック 立体によるイメージの理解、線の効果（上昇線）の理解 クールメイクを実習する</p> <p>14 マイベストメイクの選定とトレンドメイク 目的と現状と修整から考えるマイベストメイクをデザイン デザイン画ワーク</p> <p>15 マイベストメイクトータルテクニック デザインしたメイクを実習する メイクで自己実現することを体現する</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：メイクアップに必要な基礎知識を説明できる。</p> <p>◎E：メイクアップのそれぞれの目的を理解したうえで、イメージと現状との違いを説明できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（30分）</p> <p>事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。（60分）</p>

指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に自分の顔にメイクアップ実習を行う。 定期的な技術小テストを実施する。 メイクアップデザインの課題を実施する。 フィードバックの仕方：実習時にコメントをする。授業内及び授業外で質疑応答。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E：トータルメイクの実技試験を評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	JMAセルフメイク検定公式テキスト 一般社団法人JMA
参考書	
履修上の注意	「セルフビューティ論」を履修することが望ましい。 実習は自分の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
福島裕司			
ナンバリング：F15C49	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半はタッチアップするためのポイントメイクオフとポイントメイクをマスターすることを重点的に行う。後半はカウンセリングの手順を学び、メイクアップの提案&フルメイクアップができる技術を身につける。 ◎B 相モデル演習やロープレを行いコミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E ビューティカウンセリングを行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。		
授業計画	1	ガイダンス 授業目標、授業の進め方の説明、評価の仕方、使用する道具の説明 美容業界、ファッションブランド～アーチストブランドを学ぶ	
	2	ポイントクレンジング～スキンケア クレンジング～スキンケアの種類や手順を学ぶ 相モデルで実習	
	3	ベースメイクアップ 皮膚の知識やベースメイクの種類を学ぶ スキンケア～ベースメイクまで相モデルで実習	
	4	タッチアップ演習① ポイントメイクオフとポイントメイク リップテクニックを学ぶ リップの違いを学び実習する アイメイクの上からのタッチアップ方法	
	5	タッチアップ演習② ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク（アイシャドー・アイライン） アイシャドーとアイラインのメイク方法を学び実習する	
	6	タッチアップ演習③ ポイントメイクオフとポイントメイク アイメイク（アイライン・ビューラー・マスカラ） アイブローテクニック ビューラーとマスカラのメイク方法を学び実習する	
	7	タッチアップ演習④ ポイントメイクオフとポイントメイク アイブローテクニックを学ぶ アイブローの色と形を理解してモデルに合わせて実習する	
	8	ビューティカウンセリング① 接客の心得とは何かを学ぶ 笑顔～姿勢～挨拶まで学び、繰り返し練習する	
	9	ビューティカウンセリング② ホスピタルティマインドを学ぶ 接客に必要な知識を学び、演習する	
	10	ビューティカウンセリング③ 聴く力 販売ロールプレイングを学び接客力を上げる	
	11	ビューティカウンセリング④ 販売ロールプレイングを行い接客力を学ぶ 分析力 ゴールに向けて言語化 ビューティカウンセリングを行いメイクアップの提案	
	12	ビューティカウンセリング⑤ ビューティカウンセリングを行いメイクアップの提案 一つのポイントメイクをリタッチ 相モデルで実習	
	13	ビューティカウンセリング&メイクアップ① ビューティカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ	
	14	ビューティカウンセリング&メイクアップ② ビューティカウンセリングを行いスキンケアとメイクアップの提案・カウンセリングシート作成 2つのポイントメイクをリタッチ	
	15	ビューティカウンセリング まとめ いままでのフィードバックを行う。 授業の振り返りとこれからの美容について考え、レポートにまとめる	
学習成果・到達目標・基準	◎B 相モデル演習やロープレを行いコミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E ビューティカウンセリングを行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。		
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。（20分）		

	事後学習：課題となったテーマについて、授業内容を振り返りながら技術を復習しておくこと。(25分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。 アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習（相モデルメイク）を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：接客を想定したコミュニケーションを実施し、カウンセリングシートがアドバイスも含めて仕上げられているかどうかを評価する。 D：カウンセリングシート通りに、メイクアップが仕上がっているかを評価する。 実技30%、カウンセリングシート20%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 1級 公式テキスト (一般社団法人JMA)
参考書	なし
履修上の注意	セルフメイク演習、セルフビューティ論を履修していることが望ましい。 実習は学生同士がお互いにモデルとなって行う形式である。(相モデル) メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：F25C46	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べられるようにする。</p> <p>◎E：状況に合わせて必要なメイクアップを判断し、表現できる。 ○D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多様な活用方法を説明できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。</p> <p>2 「顔」「化粧」とは 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのかを考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)</p> <p>3 ファッション業界とメイクアップ ファッション業界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く)</p> <p>4 表現とメイクアップ 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。 (ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書く)</p> <p>5 女性の顔、男性の顔 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)</p> <p>6 子どもの顔、老人の顔 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。</p> <p>7 世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。</p> <p>8 顔と心 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)</p> <p>9 自分の顔、他者の顔 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。他者の顔を観察し、魅力を見つける。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。 (シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う)</p> <p>10 人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。</p> <p>11 時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。</p> <p>12 似合うメイクアップ (1) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>13 似合うメイクアップ (2) ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>14 メイクアップの可能性について (1) (プレゼンテーション) 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。</p>

	15 メイクアップの可能性について (2) (プレゼンテーション) 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。
学習成果・到達目標・基準	◎E：メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解している。 ○D：メイクアップの多様な活用方法を理解している。
事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った資料、情報収集をする。(30分) 事後学習：課題となったテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。(30分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習(セルフメイク)を行う。 授業内でスマートフォンやパソコンを使用し、課題制作や提出がある。 フィードバック方法： Google classroomを使用した課題、提出物については随時授業内にてレビューする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：試験でシチュエーションに合ったイメージのメイクアップを提案できるかを評価する。 ○D：課題において、メイクアップの方法を具体的に記述できているかを評価する。 実技30%、プレゼンテーション30%、課題20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜データで資料を共有
参考書	「顔の百科事典」日本顔学会
履修上の注意	一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習(セルフメイク)を行うため、授業終了時にメイクを落とす場合があり、授業に必要なメイク道具のほか、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア(質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) ブレイン・ダンプ(与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F15C51	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。 (授業目標) 相モデル（ペア）演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、コミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E：ヘアメイク演習を通し、トータル（ヘア、メイク、洋服）バランス能力を高めることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス、道具の使い方（実習：1～5.7.9.11.15回） ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>2 ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピニング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>3 ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>4 ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>5 ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>6 ヘアアレンジ基礎（ペアワーク、グループワーク） アイロン ・ヘアデモンストレーション</p> <p>7 流行ヘアアレンジ・メイク（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>8 流行ヘアアレンジ・メイク（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション</p> <p>9 カジュアルヘアとモードヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>10 カジュアルヘアとモードヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>11 ブライダルヘア（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用</p> <p>12 ブライダルヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション</p> <p>13 トータルで考えるイメージヘア（1）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>14 トータルで考えるイメージヘア（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン</p> <p>15 スタイル作成 ・技術確認</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。 ◎E：ヘアアレンジの基礎（編み込み、カジュアルアレンジスタイル）ができる。

事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：関根教史）			
ナンバリング：F25C50	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 （授業目標） 相モデル（ペア）演習、グループ演習、ヘアカウンセリングディスカッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。 ◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。
授業計画	1 ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認（実習：1～6.8.9.11.15回） ブラシ・コム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 2 ヘアアレンジ確認と応用（1） ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 3 ヘアアレンジ確認と応用（2） すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 4 ヘアアレンジ応用（1） ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 5 ヘアアレンジ応用（2） ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 6 ヘアアレンジ応用（3） 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 7 ヘアアレンジ応用（4）（ペアワーク、グループワーク） 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション 8 ヘアアレンジ応用（5） パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 9 カジュアルヘアとショーヘアの違い（1） ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 10 カジュアルヘアとショーヘアの違い（2）（ペアワーク） ・ヘアデモンストレーション 11 ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用 12 トータルで提案するヘアメイク（1）（ペアワーク） ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン 13 トータルで提案するヘアメイク（2）（ペアワーク） ※スマートフォン 14 トータルで提案するヘアメイク（3）（ペアワーク） ※スマートフォン 15 スタイル作成 ・技術確認

学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し、キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身につける。 ◎E：ヘアアレンジの応用（美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル）ができる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。（45分） 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。（45分）
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F15C53	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。爪の名称や用具用材の特徴を知り、シンプルなデザインから繊細なアートまでを学ぶ。自分の爪を使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。ネイルデザインはネイルチップを使い、ジェルカラーの選び方、デザイン・色彩・パーツのバランスなどの演習を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を学び、理解する。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成し、いろいろな技法を修得する。 個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上 オリジナルのデザインを表現する。</p>
授業計画	<p>1 ネイルアート演習 1 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 学科：爪の形、構造・ジェルの理論</p> <p>2 実技：マニキュア 学科：マニキュアで使用する材料の成分を学習し適切な扱い方を学ぶ。 実技：ポリッシュの塗り方 カラー別4パターン。</p> <p>3 実技：マニキュア ラメグラ・フレンチ 実技：ポリッシュで出来る事をさらに深める。正しい落とし方を学ぶ。</p> <p>4 実技：マニキュアアート 学科：ジェル 学科：ジェル理論 正しいジェルの取り扱い方 教材の使い方。次回から始めるジェルの授業に向けての説明。</p> <p>5 実技：ジェルネイル Basic ワンカラー・ジェルネイルオフ 教材の確認。ネイルチップ、または自分の手を使用して練習する。 ジェルネイルの正しいオフの仕方。</p> <p>6 実技：ジェルネイル プレパレーション グラデーション ジェルネイルをする前のケアを学ぶ。 カラーグラデーションなど、社会に出た時の身だしなみを整える上で必要な手元の美容を学ぶ。</p> <p>7 実技：ジェルネイル フレンチネイル ネイルチップを使用して練習する。オフィスネイルの王道から、アレンジまで様々なフレンチを学ぶ。</p> <p>8 実技：ジェルネイル ベッコウ・天然石ネイル ネイルチップを使用して練習する。ニュアンスネイル、マーブルネイル。</p> <p>9 実技：ジェルネイル ミラーネイル ネイルチップを使用して練習する。氷ネイル・ユニコーンネイル。成人式ネイルの人気アートを学ぶ。</p> <p>10 実技：ジェルネイル キラキラネイル 学生の要望を聞いて、Vカットのラインストーンなどを埋め込んだり、人気のアートの授業。</p> <p>11 実技：ジェルネイル ドット・アニマル柄 極細の筆を使用し練習。柄の配置など、ネイルスクールでも学べないようなアートのコツを学ぶ。 ネイル以外の事にも活かせるバランスの取り方など、応用し可能性を広げる。</p> <p>12 実技：ジェルネイル 立体アート SNSで流行りのアートを取り入れる。オリジナルパーツの作り方など作品制作のクオリティーを上げる技術を学ぶ。</p> <p>13 成績評価 作品のデザイン画制作 オリジナルのデザインを小さな世界に表現する。</p> <p>14 個人制作 作品提出 ※対面授業 テーマ：「自分の為のウェディングネイル」5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。</p> <p>15 個人制作 作品提出 テーマ：「自分の為の成人式ネイル」5本～10本セット ※授業後に、デザイン画と共に提出。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を身に付け、デザインの名前、用具の名前を説明できる。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成できる。個人制作では、自ら考えたデザインを表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。また、次週のネイルデザインの色決めをしておくこと。(30分) 事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。(30分)</p>

指導方法	<p>ネイル概論では、爪の構造・名称・ジェルネイルの成分を学習。 講師によるデモンストレーションを見た後に、練習。 自身の爪を使ってネイルケア実習を行い、内容によりネイルチップを使用。 基礎アート、応用アートを修得し、修得後は個人作品を提出する。制作物で授業への理解度を確認し、評価する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：ネイルに関する用語、デザインの知識を理解し、表現できているのかを評価する。 E：課題に応じたネイルアートの完成度を評価する。 課題70%、授業貢献度30%</p>
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	<p>・NAIL MAX ・NAIL VENUS ・NAIL UP ・その他ファッション雑誌など</p>
履修上の注意	<p>自身の爪を使用する授業の時(6回目を予定)は、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。</p>
アクティブ・ラーニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
ナンバリング：F25C54	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識・技能を修得する。 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラワー」の演習を行なう。 ※学生同士互いにモデル・プラクティスハンド・自分の手を使用。 (授業目標) ○D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどJNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの知識を身につける。 ◎E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなどJNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級取得レベルの技能を修得する。
授業計画	<p>1 ネイルアート演習2について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明。 ネイル検定3級・ジェル検定の内容、モデルについて。</p> <p>2 ジェルネイル検定初級 ジェル検定初級課題のアート”ピーコック”を学ぶ。</p> <p>3 ジェルネイル検定初級 赤いポリッシュと赤いジェルを塗る。</p> <p>4 ジェルネイル検定初級 ジェル検定試験同様の仮試験を実施。</p> <p>5 ジェルネイル検定初級 ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでを学ぶ。</p> <p>6 ネイル検定3級 教材の説明・プッシャー・ニッパーの使用法 教材の使い方・プッシャーとニッパーの正しい使い方を学ぶ。</p> <p>7 ネイル検定3級 教材配布 自分の手、または相モデルにてプッシャーとニッパーの正しい使い方を練習。</p> <p>8 ネイル検定3級 テーブルセッティング 演習1で学んだ、ファイリングを再度確認。 ネイル検定3級の手指消毒～ネイルケアまでの通し。</p> <p>9 ネイル検定3級 プッシャー・ニッパーの使用法の復習。 手指消毒～ネイルケアまでをプラクティスハンド、または相モデルにて練習。</p> <p>10 ネイル検定3級 学科：過去問を使用し学科対策 筆記試験合格に向けて必須項目の指導。 検定アートの説明</p> <p>11 ネイル検定3級 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>12 ネイル検定3級 これまで学んできた事の復習と共に、受験時の採点ポイントを抑える。 実技検定に合格するために必要な事を復習。</p> <p>13 ネイル検定3級 検定アートも含めて、通し練習。</p> <p>14 実技テストについて(60分)・検定学科のテスト(30分) 実技の通し練習と筆記テスト。</p> <p>15 演習2 検定試験の実技テスト 検定を受験する為に必要な知識・理解度の実技テスト。</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ◎E：JNECネイリスト技能検定試験3級とジェルネイル検定初級の受験可能なレベルの技能を修得する。
事前・事後学習	事前学習：3級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。 ネイル検定に必要な物の確認・用意しておく。(20分) 事後学習：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。 過去問題を繰り返し行い覚える。(40分)
指導方法	JNECネイリスト技能検定試験3級、ジェルネイル検定初級の試験内容を把握する。 講師によるデモンストレーションの後、理解度・疑問点などを指導し、実技の練習がメインとなる。 後半授業では、検定試験同様のタイム入力をプラクティスハンドや相モデルで行う。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：JNECネイリスト技能検定試験3級の知識を提出課題で評価する。 E：JNECネイリスト技能検定試験3級の技能を工程、仕上りで評価する。 技術行程・仕上り70%、授業態度・貢献度30%、
テキスト	必要に応じて、プリントを配布
参考書	JNAテクニカルシステムベーシック
履修上の注意	実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラー ニング	実習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：1年生F36C56	ナンバリング：2年生F36C52	実務家教員による授業	
添付ファイル			
参考資料①2022年版説明会.pdf		昨年度のプログラム概要説明です	
参考資料②2022年版Spring_日程表.pdf		昨年度費用です 本年度は為替、米国の経済状況により変更あります	
参考資料③2022年版アメリカ・グローバルキャリアプログラム紹介.pdf		昨年度の日程です 本年度は説明会で発表します	
授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、本学が指定する海外インターンシッププログラム「America Global Career Program」（昨年度資料は添付ファイル参照）に参加し所定の成果を出すことで、インターンシップ1及びインターンシップ2の単位合計2単位が取得できるプログラムで、開講期間内ではなく夏期もしくは春期休暇期間中に実施する。</p> <p>インターンシップ研修を通じ、アメリカ文化に触れ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。</p> <p>インターンシップ先として、JAL、KDDI、JTB、BOOK OFF等の日本企業のロサンゼルス支社等をはじめ、アパレル、美容、ホテル、広告、エンターテインメント、幼稚園等と多岐に渡る。本人の希望と語学力等によりインターンシップ先を決める。</p> <p>（授業目標） 自分らしい「生き方」「働き方」を見出すキッカケを掴め、「自分ひとりでは体験できない機会」を体験する。世界中で挑戦する人・企業と出会い、多様な価値観に触れ、感じる場をつくることで新しい可能性を自覚し、グローバルに活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ◎B：海外の社会に触れ、語学力を含めたコミュニケーション力を養うことができる。</p>		
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） 海外インターンシップの意義、目的との意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、参加費用、研修先案内等説明する。後日申込受付をする。</p> <p>2 オンライン個別相談（課外時間にて実施予定） ロサンゼルスとのコーディネーターとZOOMで面談し、希望インターンシップ先と英語力を確認する。後日、インターンシップ先企業の決定通知がある。</p> <p>3 最終説明会（課外時間にて実施予定・渡米の1～3週間前） 渡航や滞在先、研修内容についての説明会を実施し、後日現地滞在先決定の通知がある。</p> <p>4 合同ビジネス研修（渡航先で4日間実施・滞在はホテル） LAダウタウンクレスト、グローバルリーダーフォーラム、企業訪問等、他校を含む参加する日本の学生が合同で実施する。</p> <p>5 実地研修（個別）（渡航先で2～3週間実施・滞在はホームステイ） 受け入れ先企業にて、日々の業務を行う。研修終了後、学びの振り返りと実習先企業へプレゼンテーションを実施する。</p> <p>6 報告面談（課外時間にて実施予定） 帰国後、担当教員へ報告、面談を行い、総合的な評価のもと単位認定となる。</p>		
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を理解できる。 ◎B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>		
事前・事後学習	<p>語学力に応じてインターンシップ先が決まるため、事前に語学力を身に着けること。 希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：帰国後は研修内容をプレゼンテーションする。その内容は、就職活動の面接等でも活かせるよう準備すること。</p>		
指導方法	担当教員の他、ロサンゼルスとのコーディネーターの協力の基、実施する。事務関連は教務部が行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>所定の事前・事後研修、実習を修了し、報告会及び面談により総合的に2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。</p> <p>インターンシップ1の研修・実習時間は、事前・事後学習を含めて45時間、インターンシップ2は、1の45時間を含め、継続して90時間以上の研修・実習をすることで単位が取得できる。従って18泊19日コース、24泊25日コースの修了者ともインターンシップ2の研修・実習時間要件を満たすため1.2合わせて2単位取得することができる。</p> <p>なお、履修登録はインターンシップ修了後に登録すること。従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要なことを経験している。</p>		
テキスト	研修期間中に配布する。		
参考書	特になし。		

履修上の注意	<p>「アメリカ・グローバルキャリアプログラムインターンシップ」は、本学が指定する海外インターンシッププログラムで、アメリカロサンゼルスのコディネート会社であるLighthouse Career Encourage USA Corpの協力のもと、実施する。</p> <p>*令和5年度の実施概要は、授業計画1の説明会内で発表する。 *昨年度日程、費用等の概要は添付ファイルを参照のこと。 *研修・実習に係る渡航費、滞在費、食費、保険、プログラム実習費は参加者の負担となる。 *インターンシップは無報酬となる。 *新型コロナウイルスによる影響、インターンシップ先等の都合で変更の場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、井上近子（契約講師：西村リサ）			
ナンバリング：1年生F36C57	ナンバリング：2年生F36C53	実務家教員による授業	
添付ファイル			
参考資料①2022年版説明会.pdf	昨年度のプログラム概要説明です		
参考資料②2022年版Spring_日程表.pdf	昨年度費用です 本年度は為替、米国の経済状況により変更あります		
参考資料③2022年版アメリカ・グローバルキャリアプログラム紹介.pdf	昨年度の日程です 本年度は説明会で発表します		
授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、本学が指定する海外インターンシッププログラム「America Global Career Program」（昨年度資料は添付ファイル参照）に参加し所定の成果を出すことで、インターンシップ1及びインターンシップ2の単位合計2単位が取得できるプログラムで、開講期間内ではなく夏期もしくは春期休暇期間中に実施する。</p> <p>インターンシップ研修を通じ、アメリカ文化に触れ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。</p> <p>インターンシップ先として、JAL、KDDI、JTB、BOOK OFF等の日本企業のロサンゼルス支社等をはじめ、アパレル、美容、ホテル、広告、エンターテインメント、幼稚園等と多岐に渡る。本人の希望と語学力等によりインターンシップ先を決める。</p> <p>（授業目標） 自分らしい「生き方」「働き方」を見出すキッカケを掴め、「自分ひとりでは体験できない機会」を体験する。世界中で挑戦する人・企業と出会い、多様な価値観に触れ、感じる場をつくることで新しい可能性を自覚し、グローバルに活躍できる人材となることを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：海外の社会に触れ、語学力を含めたコミュニケーション力を養うことができる。</p>		
授業計画	<p>1 説明会（課外時間にて実施予定） 海外インターンシップの意義、目的との意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、参加費用、研修先案内等説明する。後日申込受付をする。</p> <p>2 オンライン個別相談（課外時間にて実施予定） ロサンゼルスとのコーディネーターとZOOMで面談し、希望インターンシップ先と英語力を確認する。後日、インターンシップ先企業の決定通知がある。</p> <p>3 最終説明会（課外時間にて実施予定・渡米の1～3週間前） 渡航や滞在先、研修内容についての説明会を実施し、後日現地滞在先決定の通知がある。</p> <p>4 合同ビジネス研修（渡航先で4日間実施・滞在はホテル） LAダウントウンクエスト、グローバルリーダーフォーラム、企業訪問等、他校を含む参加する日本の学生が合同で実施する。</p> <p>5 実地研修（個別）（渡航先で2～3週間実施・滞在はホームステイ） 受け入れ先企業にて、日々の業務を行う。研修終了後、学びの振り返りと実習先企業へプレゼンテーションを実施する。</p> <p>6 報告面談（課外時間にて実施予定） 帰国後、担当教員へ報告、面談を行い、総合的な評価のもと単位認定となる。</p>		
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習： 語学力に応じてインターンシップ先が決まるため、事前に語学力を身に着けること。 希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：帰国後は研修内容をプレゼンテーションする。その内容は、就職活動の面接等でも活かせるよう準備すること。</p>		
指導方法	担当教員の他、ロサンゼルスとのコーディネーターの協力の基、実施する。事務関連は教務部が行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>所定の事前・事後研修、実習を修了し、報告会及び面談により総合的に2段階で評価（Passもしくは、Drop）する。</p> <p>インターンシップ1の研修・実習時間は、事前・事後学習を含めて45時間、インターンシップ2は、1の45時間を含め、継続して90時間以上の研修・実習をすることで単位が取得できる。従って18泊19日コース、24泊25日コースの修了者ともインターンシップ2の研修・実習時間要件を満たすため1.2合わせて2単位取得することができる。</p> <p>なお、履修登録はインターンシップ修了後に登録すること。従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要なことがあることを経験している。</p>		
テキスト	研修期間中に配布する。		

参考書	特になし。
履修上の注意	<p>「アメリカ・グローバルキャリアプログラムインターンシップ」は、本学が指定する海外インターンシッププログラムで、アメリカロサンゼルスのコディネート会社であるLighthouse Career Encourage USA Corpの協力のもと、実施する。</p> <p>*令和5年度の実施概要は、授業計画1の説明会内で発表する。 *昨年度日程、費用等の概要は添付ファイルを参照のこと。 *研修・実習に係る渡航費、滞在費、食費、保険、プログラム実習費は参加者の負担となる。 *インターンシップは無報酬となる。 *新型コロナウイルスによる影響、インターンシップ先等の都合で変更の場合がある。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し

講義科目名称： キャリアゼミ：デザイン クリエーションゼミ 授業コード：
(ファッション)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F37A58			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「デザイン クリエーションゼミ (ファッション)」</p> <p>学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半7回は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>前半は、ファッション業界の職種を知り、デザイン画における人体の理解を深め自分の世界観を表現するスキルを学ぶ。</p> <p>後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。</p> <p>○C：独自のクリエイションを研究し、さらに将来のビジョンを思考できる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス、2年生ディスカッション (平光) 授業内容、授業の進め方、課題について説明 2年生から就職活動体験談やゼミでの学びの成果の発表を聞き、今後の指針を得る</p> <p>2 職種研究 (1) (ゲスト講師) 現役デザイナーからファッション業界の現状を聞く (1)</p> <p>3 職種研究 (2) (ゲスト講師) 現役デザイナーからファッション業界の現状を聞く (2)</p> <p>4 スティリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) スティリズムとは、人体の理解と表現 エクササイズ (コラージュなど)</p> <p>5 スティリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) エクササイズ (鉛筆模写など) プロポーションの描き方を学ぶ</p> <p>6 スティリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) デザイン画、着色、着装表現の描き方を学ぶ</p> <p>7 卒業生とディスカッション (平光) 社会で活躍している卒業生から就職活動体験談や現在の仕事内容を聞き、今後の指針を得る</p> <p>8 オリエンテーション、SPI模試 (キャリアセンター) 3月から本格的にスタートする就職活動の流れと必要な準備について SPI模擬試験実施</p> <p>9 就職活動の準備について (キャリアセンター) 求人探し方や企業研究の方法</p> <p>10 履歴書の書き方を知る (1) (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みを考える</p> <p>11 就職活動、面接でのマナー講座 (キャリアセンター) 就職活動に必要なマナー (立居振舞、言葉遣い) などの基本を学ぶ</p> <p>12 履歴書の書き方を知る (2) (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>13 就職活動に必要な面接のポイント (1) (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>14 就職活動に必要な面接のポイント (2) (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>15 振り返り (キャリアセンター) 履歴書や面接ロールプレイングの内容をもとに振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している ○C：自分のキャリアを論理的に思考できる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する (15分)。 事後学習：各回の課題を完成させる (30分)。 指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく
指導方法	(前半7回) 論理思考をベースに、ディスカッション形式でキャリアデザインを進める。 学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。 (後半8回) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開

	<p>する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点し返却、④授業後における採点について質疑応答 パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。</p>
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>◎D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 ○C：課題を評価する。 作品40%、課題30%、授業への貢献度30%</p>
テキスト	<p>なし 適宜プリント資料を配布する。</p>
参考書	<p>適宜プリント資料を配布する。</p>
履修上の注意	<p>（前半7回）ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 （後半8回）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>（前半7回）ディスカッション （後半8回）履歴書実作、模擬面接などの実践</p>

講義科目名称： キャリアゼミ：デザイン クリエーションゼミ 授業コード：
(デジタル)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F37A58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「デザインクリエイション (デジタル) ゼミ」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 前半7回は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。</p> <p>前半は、デジタルリテラシーを養い、クリエイティブな発想を表現する。デザインの背景を考え、企画したものを実際に形にする。デザインを点で考えるのではなく、線で考えてストーリーを考える事で、伝達力を強める。 Adobeのクリエイティブソフトを使い、企画やデザイン制作を行い、就活で使えるポートフォリオを作成する。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。 (授業目標) ◎D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる ◎E：デジタルクリエイション技能を向上させ、ポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって、コンセプトに基づくデザイン説明ができる</p>
授業計画	<p>1 本講座について (中村) 概要説明と業界研究</p> <p>2 Adobeについてとワイヤーフレーム (中村) Adobeソフトの説明とポートフォリオ制作に向け、ワイヤーフレームを作成</p> <p>3 自己紹介ページ作成 (中村) エントリーシートの自由記入欄を想定しデジタルスキルを使い制作する</p> <p>4 ポートフォリオ制作 (中村) 進みたい業界に合わせ、コンセプトに基づくブランド企画をする。</p> <p>5 ポートフォリオ制作 (中村) 写真合成を多様し企画を膨らませる。企画に合わせ撮影。</p> <p>6 ポートフォリオ制作 (中村) 写真合成を多様し企画を膨らませる。企画に合わせ撮影。</p> <p>7 作品発表 (中村) 制作まとめ・発表</p> <p>8 就活の為のオリエンテーションとSPIテスト (キャリアセンター) 3月から本格的にスタートする就職活動の流れと必要な準備について 内定者体験談</p> <p>9 就職活動の準備について (キャリアセンター) 求人探し方や企業研究の方法</p> <p>10 履歴書の書き方を知る① (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みを考える</p> <p>11 就職活動、面接でのマナー講座 (キャリアセンター) 就職活動に必要なマナー (立居振舞、言葉遣い) などの基本を学ぶ</p> <p>12 履歴書の書き方を知る② (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>13 就職活動に必要な面接のポイント① (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>14 就職活動に必要な面接のポイント① (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>15 振り返り (キャリアセンター) 履歴書や面接ロールプレイングの内容をもとに振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している ◎E：就活業界に合うポートフォリオを制作することができる</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：次回授業時に必要な素材や写真を集め表現を具体的に。また、指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 (15分) 事後学習：デザインパーツなど各回の課題を完成させる。また、毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく (30分)</p>

指導方法	(前半7回) パワーポイントを使用した講義、学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。Adobe操作に関しては遅れの出る学生が出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 (後半8回) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D:授業態度(参加度、積極性)を評価する。 E:作品の完成度を評価 作品50%、履歴書や模擬面談20%、授業態度(参加度、積極性)30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	(前半7回) Adobeソフト使用 各自PC持参 (後半8回) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング	(前半7回) ポートフォリオ制作 (後半8回) 履歴書実作、模擬面接などの実践

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション ビジネスゼミ 授業コード：
(プランニング)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F37A58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッションビジネスゼミ（プランニング）」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半7回は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。 前半は、ファッション業界の本部（本社）での役割と仕事内容を理解する。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。</p> <p>(授業目標) ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションすることができる。 ○D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。</p>
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状（大滝） 本ゼミナールの概要、ファッション業界のしくみについて</p> <p>2 本部の就職研究（個人ワーク）（大滝） アパレル本部の商品・営業・販売促進系統の職種・役割について</p> <p>3 本部の職種研究（プレゼンテーション）（大滝） 希望職種内容の個別プレゼンテーション及びキャリアアッププランについて</p> <p>4 商品企画・MD演習（ワーク）（大滝） アパレルブランドの商品企画とマーチャンダイジング基礎演習</p> <p>5 PR/ブランディング演習（ワーク）（大滝） PR視点でのファッションブランドのブランドブック作成演習</p> <p>6 PR/ブランディング演習（プレゼンテーション）（大滝） 自己作成したPR用ブランドブックの個別プレゼンテーション</p> <p>7 アパレル企業研究（ワーク）（大滝） 就職活動用企業研究・資料の読み方解説</p> <p>8 オリエンテーション，SPI模試（キャリアセンター） 3月から本格的にスタートする就職活動の流れと必要な準備について SPI模試</p> <p>9 就職活動の準備について（キャリアセンター） 求人探し方や企業研究の方法</p> <p>10 履歴書の書き方を知る①（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みを考える</p> <p>11 就職活動、面接でのマナー講座（キャリアセンター） 就職活動に必要なマナー（立居振舞、言葉遣い）などの基本を学ぶ</p> <p>12 履歴書の書き方を知る②（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>13 就職活動に必要な面接のポイント①（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>14 就職活動に必要な面接のポイント②（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>15 振り返り（キャリアセンター） 履歴書や面接ロールプレイングの内容をもとに振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分の考えを論理的に説明できる。 ○D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。 指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく
指導方法	(前半7回) パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業及びブランドの調査を行い、商品特性やプロモーション表現を学ぶ。

	(後半8回) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する。 D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし 適宜資料を配布する。
参考書	適宜資料を配布する。
履修上の注意	(前半7回) ファッション業界及びファッション関連業界において就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。 (後半8回) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラーニング	(前半7回) プレゼンテーション (後半8回) 履歴書実作、模擬面接などの実践

講義科目名称： キャリアゼミ：ファッション ビジネスゼミ 授業コード：
(セールス)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F37A58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション ビジネスゼミ (セールス)」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半7回は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。 前半は、ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。</p> <p>(授業目標) ◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法について論理的にプレゼンテーションすることができる。 ○D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。</p>
授業計画	<p>1 ファッション業界の基礎、ファッション販売員の研究 (1) グループワーク (井上) 本ゼミナールの概要、業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは</p> <p>2 ファッション販売員の研究 (2) グループワーク (井上) 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは</p> <p>3 ファッション販売員の研究 (3) グループワーク (井上) 「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>4 2年生内定者体験講話、就活サイトの活用方法 (井上) 就職活動の注意点とアドバイス、キャリアNavi、Webの活用方法</p> <p>5 店舗運営の研究 (1) グループワーク (井上) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは</p> <p>6 店舗運営の研究 (2) グループワーク (井上) 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは</p> <p>7 店舗運営の研究 (3) プレゼンテーション (井上) 「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り</p> <p>8 オリエンテーション、SPI模試 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う</p> <p>9 就職活動の準備について (キャリアセンター) 求人探し方や企業研究の方法</p> <p>10 履歴書の書き方を知る① (キャリアセンター) 自己分析を通して自分の強みを考える</p> <p>11 就職活動、面接でのマナー講座 (キャリアセンター) 就職活動に必要なマナー (立居振舞、言葉遣い) などの基本を学ぶ</p> <p>12 履歴書の書き方を知る② (キャリアセンター) 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>13 就職活動に必要な面接のポイント① (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>14 就職活動に必要な面接のポイント② (キャリアセンター) 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>15 振り返り (キャリアセンター) 履歴書や面接ロールプレイングの内容をもとに振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分の考えを論理的に説明できる。 ○D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく。 指定した資料を用いて自己分析を行い、興味のある業界を調べておく (20分)。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく (25分)。
指導方法	(前半7回) パワーポイントを使用した講義とグループワーク形式で授業を展開する。特に、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の特徴やマーケティング戦略を学ぶ。 (後半8回) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：プレゼンテーション、課題を評価する。 D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	（前半7回）日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。 （後半8回）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラー ニング	（前半7回）グループワーク、プレゼンテーション （後半8回）履歴書実作、模擬面接などの実践

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
安東徳子、佐藤賢志			
ナンバリング：F37A58			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ウエディングゼミ」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 前半7回は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。 前半は、専門のゲスト講師を招き、業界の専門知識やスキルを講義、演習から主体的に学修する。また身近な社会現象等も取り上げグループワークで討議を行い、プレゼンテーションで発表する力を養う。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。 (授業目標) ◎C：身近な社会現象に対し興味を持ち、思考力を働かせ考察する。 ○D：ウエディングホスピタリティを理解し、就職のための知識を身につける。 目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる。</p>
授業計画	<p>1 ウエディングゼミガイダンス ウエディング業界に特化した就職活動の概要を知る</p> <p>2 就活に必要な2つの準備 自己分析と企業研究の手法を学ぶ</p> <p>3 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師①専門式場） 専門式場の採用活動を知る</p> <p>4 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師②ゲストハウス） ゲストハウスの採用活動を知る</p> <p>5 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師③ウエディングコスチューム企業） ドレスショップの採用活動を知る</p> <p>6 人事担当者から学ぶ就活（ゲスト講師④ホテルウエディング） ホテルウエディングの採用活動を知る</p> <p>7 自分の就活スタイル 就職活動の方向性を決める指針を学ぶ</p> <p>8 オリエンテーション、SPI模試（キャリアセンター） 3月から本格的にスタートする就職活動の流れと必要な準備について SPI模擬試験実施</p> <p>9 就職活動の準備について（キャリアセンター） 求人探し方や企業研究の方法</p> <p>10 履歴書の書き方を知る（1）（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みを考える</p> <p>11 就職活動、面接でのマナー講座（キャリアセンター） 就職活動に必要なマナー（立居振舞、言葉遣い）などの基本を学ぶ</p> <p>12 履歴書の書き方を知る（2）（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>13 就職活動に必要な面接のポイント（1）（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>14 就職活動に必要な面接のポイント（2）（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>15 振り返り（キャリアセンター） 履歴書や面接ロールプレイングの内容をもとに振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：社会問題に対し、自分の考えを持ち討議できる。 ○D：ウエディング業界で働くために修得すべきことを理解できる。
事前・事後学習	事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと。（20分） 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること。（25分）
指導方法	（前半7回）通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出をする。 （後半8回）パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロールプレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの仕方：添削を行いコメントを記載し返却する。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：グループワークでの自己提案力と貢献度 D：ウエディング業界の理解度 授業態度（参加度、積極性）を評価する。 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年前期に購入済み） プリント配布（式場見学シート、組織に求められる8つの適性、40秒の自己PRチェック表）
参考書	
履修上の注意	（前半7回）ウエディング関連企業に興味を持っていること。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。 （後半8回）業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラー ニング	（前半7回）グループワーク （後半8回）履歴書実作、模擬面接などの実践

講義科目名称： キャリアゼミ：ビューティゼミ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子（契約講師：西村リサ）、新井葉子			
ナンバリング：F37A58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ビューティゼミ」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。前半7回は学科担当教員、後半8回はキャリアセンターが指導を行う。 前半は、ビューティ業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。 後半は、就職活動の開始時期に適切なスタートが切れるように、面接試験や履歴書の書き方などの基本的知識を学ぶ。 (授業目標) ◎D：目指す業界の求められる人材やスキルを理解し、そのための対策や準備を進めることができる 自己理解を深め、企業や業種の特性と自分と相性について考えられる。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス（専任教員） 本ゼミナールの概要、ビューティ業界について</p> <p>2 就職活動準備（1）（専任教員） ビューティゼミ2年生内定者による就職活動の流れについて</p> <p>3 就職活動準備（2）（専任教員） ワークライフバランスについて（働く目的と働き方）</p> <p>4 職種研究（1）（ゲスト講師） ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について（1） 化粧品・ネイル・エステ業界</p> <p>5 職種研究（2）（ゲスト講師） ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について（2） 化粧品・ネイル・エステ業界</p> <p>6 職種研究（3）（ゲスト講師） ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について（3） 化粧品・ネイル・エステ業界</p> <p>7 職種研究（4）（ゲスト講師） ビューティ業界で働く方のキャリア、仕事内容について（4） 化粧品・ネイル・エステ業界</p> <p>8 オリエンテーション、SPI模試（キャリアセンター） 3月から本格的にスタートする就職活動の流れと必要な準備について SPI模擬試験実施</p> <p>9 就職活動の準備について（キャリアセンター） 求人探し方や企業研究の方法</p> <p>10 履歴書の書き方を知る（1）（キャリアセンター） 自己分析を通して自分の強みを考える</p> <p>11 就職活動、面接でのマナー講座（キャリアセンター） 就職活動に必要なマナー（立居振舞、言葉遣い）などの基本を学ぶ</p> <p>12 履歴書の書き方を知る（2）（キャリアセンター） 志望動機の書き方のポイントについて</p> <p>13 就職活動に必要な面接のポイント（1）（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>14 就職活動に必要な面接のポイント（2）（キャリアセンター） 基礎的なロールプレイングを通して面接のポイントを学ぶ</p> <p>15 振り返り（キャリアセンター） 履歴書や面接ロールプレイングの内容をもとに振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎D：就職活動のスケジュールや必要な準備を理解している</p> <p>志望企業や職種の実務について述べる事ができる 志望企業や職種の採用時期や就労形態を理解している</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる（20分）。 事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。</p>

	指定した資料での自己分析や興味のある業界の事前学習 毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料をまとめておく
指導方法	(前半7回) 美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。 (後半8回) パワーポイントを使用した講義、履歴書の実作や面接ロープレイングによる実践形式で授業を展開する。 フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：授業態度（参加度、積極性）を評価する。 課題を評価する。 課題70%、授業態度・授業への貢献度30%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。
参考書	なし
履修上の注意	(前半7回) 受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。 (後半8回) 業界理解を深め、就職活動の基本的なスキルアップを目的とする。全員が履歴書実作、模擬面接などの実践を行う。
アクティブ・ラーニング	(前半7回) グループワーク (後半8回) 履歴書実作、模擬面接などの実践

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
中村公子、村木桂子			
ナンバリング：F37A58			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	各学生の将来を見据えて十分なガイダンスを実施しながら、最適な進路を選定する。 志望する大学の編入学試験に向けて綿密なスケジュールを策定し、計画的な学習支援を行う。 各自のスケジュールに合わせた個別指導を実施する。 (授業目標) ◎C：自らの将来を正しく選択するための思考力や判断力をを身につける。 ○D：短期大学での学びを基に、編入先の大学で通用する幅広い知識を得る。
授業計画	1 オリエンテーション・学習計画書の作成 編入に向けての準備オリエンテーション 学習計画書を作成し、編入試験までの道筋を立てる 2 進学準備カウンセリング (1)、情報収集・試験対策 (1) 各自の計画に沿って必要な支援を整える 情報収集の方法を知り、常に最新の情報に触れられるようにする 学科、小論文など試験に必要な対策を行う 3 情報収集・試験対策 (2) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 4 情報収集・試験対策 (3) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 5 情報収集・試験対策 (4) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 6 情報収集・試験対策 (5) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 7 情報収集・試験対策 (6) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 8 キャリア講座 (キャリアセンター) 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う 9 情報収集・試験対策 (7) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 10 情報収集・試験対策 (8) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 11 情報収集・試験対策 (9) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 12 情報収集・試験対策 (10) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 13 情報収集・試験対策 (11) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 14 情報収集・試験対策 (12) 学科、小論文、面接など試験に必要な対策を行う 15 対策状況確認、進学準備カウンセリング (2) 編入に向け試験対策の状況確認をし、今後の対策を練る
学習成果・到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることで合格を目指す。 ○D：受験に必要な知識や表現力を身につける。
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ、対策を行う (30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う (30分)。
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策・論述及び面接指導を行う。 フィードバックの仕方：各課題に対応して、添削指導や口頭でのフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：面接等から、志望大学合格のための計画が正しく実行されているかどうかで判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。

参考書	『直前30日で9割受かる中村祐介の志望理由書・自己推薦書』（2018）角川書店
履修上の注意	編入学を希望する学生は、本科目を履修登録すること。
アクティブ・ラーニング	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
ナンバリング：F37C55			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（ファッションデザイン）で学んだスティリズムを実際にカタチで表現し、各自オリジナル作品を製作する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為のフローを組み立てる。 (授業目標) ○A：主体的に自身の知識・技術を向上させ、積極的に作業を進め責任感を持って最後までやり抜くことができる。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、立体研究によりオリジナリティを表現する力を修得できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（平光） 概要説明、アパレル業界における自分の「目標」とそれを実現する為のプロセスを思考する</p> <p>2 業界研究（1）（平光） 副資材を扱う企業について学修し、業界研究を行う</p> <p>3 業界研究（2）（平光） 副資材を扱うショールームを見学し、業界研究を行う</p> <p>4 業界研究（3）（平光） 副資材を扱う企業について学修したことをプレゼンテーションする</p> <p>5 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ（1）</p> <p>6 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ（2）</p> <p>7 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習（1）</p> <p>8 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習（2）</p> <p>9 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） カットソー作品を製作し、立体研究について学ぶ</p> <p>10 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 作品の基本構造を学ぶ</p> <p>11 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 着用可能に修正、パターン落とし込み</p> <p>12 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） トワルチェックと付属の確認、縫製工程のチェック</p> <p>13 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（平光） デザイン画の修正、ポートフォリオ作成</p> <p>14 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） プレゼン資料作成</p> <p>15 発表（プレゼンテーション）（ゲスト講師） 企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる。 ◎E：立体作品により、オリジナリティを表現できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（20分）。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（25分）。
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的に作業を行うなど授業への貢献度を評価する。 E：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%
テキスト	なし

参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村晴菜			
ナンバリング：F37C56	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>起業を視野にブランドや企画立ち上げなどに関係した就職を希望する学生を対象にしたゼミである。どの様にサービスや商品を発信していくかのブランドストーリーを作り作品制作する。コンセプトの表現をビジュアルデザインを通して行うことで効果的なブランディングの表現力を養い、今後のビジネスに活かすことを目的とする。各自目指す業界に合わせたWeb・アプリ・グッズなど制作課題を設定し、完成までのフローを組み立てる。</p> <p>AdobeのIllustratorやPhotoshopなどのクリエイティブソフトを使い、デジタルの複合スキルを身につける（授業目標） ○A：積極的に作業を進め、責任感を持って最後までやり抜くことができる ◎E：デジタル技術を向上させ、コンセプトに基づく表現ができる</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス・Adobeについて 本ゼミナールの概要 Adobeの基本操作とできることについて学ぶ</p> <p>2 業界研究と目標設定 業界研究をし自分の目標を定めて企画書概要を作る 就活の際に使えるポートフォリオや起業に向けた企画書を含むポートフォリオを活かしたマネジメントについて知る</p> <p>3 ブランドコンセプト設定 取扱う商材やサービスの設定を決めレイアウトする</p> <p>4 ブランディングデザイン研究 様々なブランディングにまつわるデザインを知り、表現する方法での違いを学ぶ 効果的な表現方法を考察する</p> <p>5 ブランドストーリー設定 コンセプトに基づくマーケティング方法やビジュアルアイデンティティなどブランドの発信方法を決めて全体のストーリーを設定する</p> <p>6 ワイヤフレーム計画 ワイヤフレームを作ることでブランディング制作を可視化する</p> <p>7 ビジュアルアイデンティティ制作 ストーリー発信に効果的なブランディングの為のデザインパーツを制作し完成させる</p> <p>8 作品制作の為の計画 デザインを汎用させ、ブランディングに繋がる力をつける</p> <p>9 トーン&マナー設定 デザインルールを決めることでブランドの世界観の統一を図る</p> <p>10 企画内容発表 企画内容がコンセプトの伝わるものになっているか発表をし 今後の作品制作に活かす</p> <p>11 作品制作 ビジュアルアイデンティティを活かした作品制作（グッズ・カタログ・ウェブなど企画に合う制作を実施）</p> <p>12 作品制作 ビジュアルアイデンティティを活かした作品制作（グッズ・カタログ・ウェブなど企画に合う制作を実施）</p> <p>13 作品完成・撮影 作品を完成させ・企画書に入れるための撮影をする</p> <p>14 まとめ 作品を全て揃え、企画と制作まとめる。</p> <p>15 学修成果発表 講評 各作品を鑑賞し、意見を出し合い今後につなげる。また、自分の特性を客観的に考察する</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる ◎E：デザインソフトを使い、制作ができる
事前・事後学習	事前学習：ブランド発信におけるデザインの背景やコンセプトを考察する（10分） 事後学習：各自スケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（35分）
指導方法	プロジェクターにて基本操作などの講義をし、学生と同時の進行にて指導を行う 操作に遅れの出る学生の出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく 各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○A：主体的な態度で作業に取り組み、計画性を持って取り組める ◎E：コンセプトに基づく表現ができた作品になっている 作品60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	適宜フォーマット配布
参考書	
履修上の注意	Adobeソフト使用 各自PC持参 作品制作の為自主的な受講態度が求められる 「ファッションデジタルマーケティング」の科目履修をすることでデジタル技術を本科目にも活かすことができる
アクティブ・ラー ニング	プレゼンテーション・ディスカッション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
大滝秀一			
ナンバリング：F37C57	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界及びファッション関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」をふまえて、アパレル本部にとって特に必要なブランドのコンセプトワーク、商品企画・MD、プロモーションなどの視点にてアパレルブランドへのプロモーションプラン及び商品企画提案を行う。一部産学授業を含む（外部講師あり） (授業目標) アパレル会社のブランドビジネスに必要な知識やスキルを理解する。 ◎A：ブランド経営に対して積極的に調査を行い、自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状解説、グループ分けアンケート。 プロモーショングループと商品企画グループにグループ編成する。 個別面談</p> <p>2 アパレルブランド（1）リサーチ プロモーショングループと商品企画グループのグループワークにて、アパレルブランド（1）のリサーチをする</p> <p>3 アパレルブランド（1）リサーチ結果のプレゼンテーション 各グループにてリサーチ結果をプレゼンテーションし理解を深める。</p> <p>4 アパレルブランド（1）に向けての提案内容の構築（グループワーク1） プロモーショングループ及び商品企画グループ別にてグループごとに提案内容を話し合いパワーポイント資料としてまとめる</p> <p>5 アパレルブランド（1）に向けての提案内容の構築（グループワーク2） ブランドへ向けた提案としてプレゼンテーションができる資料を作成し提出する。</p> <p>6 アパレルブランド（1）へのプレゼンテーション（グループプレゼン） 各グループのプレゼンテーション及び講評</p> <p>7 アパレルブランド（2）リサーチ アパレルブランドとの産学授業 プロモーショングループと商品企画グループのグループワークにて、アパレルブランド（2）のリサーチをする</p> <p>8 アパレルブランド（2）リサーチ結果のプレゼンテーション 各グループにてリサーチ結果をプレゼンテーションし理解を深める。 及びその講評</p> <p>9 アパレルブランド（2）に向けての提案内容の構築（グループワーク1） アパレルブランド（2）よりプロモーション・商品企画に関してテーマをいただく。 そのテーマに沿い各グループにて提案内容を話し合いパワーポイント資料としてまとめる</p> <p>10 アパレルブランド（2）に向けての提案内容の構築（グループワーク2） そのテーマに沿い各グループにて提案内容を話し合いパワーポイント資料としてまとめる</p> <p>11 アパレルブランド（2）に向けての提案内容の構築（グループワーク3） ブランドへ向けた提案としてプレゼンテーションができる資料を作成し提出する。</p> <p>12 アパレルブランド（2）に向けてのグループプレゼンテーション 産学授業のためアパレルブランド（2）の責任者の方にお越し頂き、学生グループの提案に対して好評をいただく。 また業界のプロとしての視点でアドバイスを頂く。</p> <p>13 アパレル会社に対する新規ブランド提案（グループワーク1） プロモーショングループ及び商品企画グループそれぞれの得意分野を活かし、アパレル会社に対して新規ブランドもしくはプロジェクトの提案書を作成する。 企業リサーチ及びブレインストーミング</p> <p>14 アパレル会社に対する新規ブランド提案（グループワーク2） グループワークにて新規ブランドのコンセプトワーク及び商品イメージの特定もしくは新規プロジェクトの概要決定</p> <p>15 アパレル会社に対する新規ブランド提案（グループワーク3） 提案書としてパワーポイントにて資料を作成する。 期末課題として提出。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：ブランド経営に対して興味を持ちながら課題に取り組むことができる。 ○E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。

	事後学習：情報収集した内容をもとに「アパレルブランドの運営」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、ワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業のブランドリサーチを行い、ブランド運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題の取り組みや授業の貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。 外部講師がアパレル会社所属のため、講演スケジュールに変更がある場合は授業初回にて告知する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子			
ナンバリング：F37C58	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」を踏まえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。 (授業目標) ファッション小売業の店舗運営に必要な知識を理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ○A：店舗運営に対して積極的に調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめる力を身につける。 ◎E：自分の見解や主張を状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について 2 店舗運営コスト（1）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究 3 店舗運営コスト（2）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究 4 店舗運営コスト（3）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗運営」の研究 5 店舗運営コスト（4）（プレゼンテーション） 「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 6 店舗出店コスト（1）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 7 店舗出店コスト（2）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 8 店舗出店コスト（3）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 9 店舗出店コスト（4）（グループワーク） 「アパレル小売業における店舗出店」の研究 10 店舗出店コスト（5）（プレゼンテーション） 「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り 11 理想の店舗（1）（グループワーク） 「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の抽出 12 理想の店舗（2）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究 13 理想の店舗（3）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究 14 理想の店舗（4）（グループワーク） 「理想の店舗」の研究 15 理想の店舗（5）（プレゼンテーション） 「理想の店舗」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り
学習成果・到達目標・基準	○A：店舗運営に対して興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ◎E：自分の見解を論理的に人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：主体性・チームワーク・責任感：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：プレゼンテーションの取り組みおよび発表を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・プレゼンテーション

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、佐藤賢志			
ナンバリング：F37C63			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリスト等のブライダル関係に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連動してゼミ形式で授業を行う。専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行い、対応策も学修する。 (授業目標) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力コミュニケーション能力を身につける。 ○C：自分に適した企業を判断しウエディング業界への就職活動をする。
授業計画	<p>1 ウエディングゼミガイダンス シラバス説明、授業概要、就職活動について</p> <p>2 就職活動の取り組みについて 2021年度採用の企業と周辺業界の動向を知り、求められる人材に照らし合わせながら強化すべきことを見直す</p> <p>3 共感力コミュニケーションの必要性とその手法 就職活動、社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>4 就職活動に必要な視点を磨く3-why-wtep 今朝のwebニュースの実例を題材にした就職試験対策、3-why-stepの思考プロセスを理解する</p> <p>5 就職活動成功共有 過去の学生の就職成功事例を紹介</p> <p>6 3-why-stepのケーススタディ 1 環境問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>7 3-why-stepのケーススタディ 2 教育問題をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>8 3-why-stepのケーススタディ 3 物販と流通をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>9 3-why-stepのケーススタディ 4 テクノロジーをテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みる(3-why-stepシート使用)</p> <p>10 企業から見た面接とは 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える</p> <p>11 模擬面談と発表 1 (プレゼンテーション) 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>12 模擬面談と発表 2 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>13 模擬面談と発表 3 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>14 模擬面談と発表 4 公開模擬面談を客観的な視点で3-why-stepのプロセスの確認、『気づきの発表』言葉の表現力を磨く</p> <p>15 ウエディングゼミまとめ 就職活動の把握、まとめ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎B：日常生活の中でも共感力コミュニケーションを応用できる。 ○C：様々なウエディング業種の違いを判断することができる。
事前・事後学習	ウエディング業界の情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回毎のテーマについて、予習をしておくこと(20分)。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること(25分)。
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出をする。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：グループワークでの自己提案力と貢献度 C：ウェディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版（1年時に購入済み） プリント配布（組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート）
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク プレゼンテーション

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子（契約講師：西村リサ）、新井葉子			
ナンバリング：F37C60	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ビューティ業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ビューティ業界で働く心構えを学ぶ。広義に美容をとらえ、自信の生涯を通じてどのように美容と関わっていくのか考えを深め、女性の多様なキャリア形成について実例とともに学ぶ。 (授業目標) ◎D：美容への多様な関わり方を理解する。 ○E：自分の考えや思いを的確に表現できる。		
授業計画	1	ガイダンス（専任） 本ゼミナールの概要、授業の進め方	
	2	女性の多様なキャリアとライフスタイル（1）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 言葉1つで全てが変わる！ライティングの基礎知識	
	3	女性の多様なキャリアとライフスタイル（2）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識	
	4	女性の多様なキャリアとライフスタイル（3）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 「読まれる」「伝わる」ライティングの基礎知識	
	5	女性の多様なキャリアとライフスタイル（4）（ゲスト講師） 求められる知識や技術	
	6	女性の多様なキャリアとライフスタイル（5）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 売り込むためのセールスライティングの基礎知識	
	7	女性の多様なキャリアとライフスタイル（6）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 自分を売り込む！セールスライティング	
	8	女性の多様なキャリアとライフスタイル（7）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 女性の健康と食事	
	9	女性の多様なキャリアとライフスタイル（8）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 マクロビオティックについて	
	10	女性の多様なキャリアとライフスタイル（9）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 マクロビオティック望診	
	11	女性の多様なキャリアとライフスタイル（10）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 女性のライフステージと身体	
	12	女性の多様なキャリアとライフスタイル（11）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて・フリーランス	
	13	女性の多様なキャリアとライフスタイル（12）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 自分らしさの創り方	
	14	女性の多様なキャリアとライフスタイル（14）（ゲスト講師） 求められる知識や技術 学びとキャリアの広がりについて	
	15	ガイダンス（専任） 自分らしい生き方を目指して～ワークライフバランスについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：前例や美容業界の現状を踏まえ、自身のキャリア形成について考えられる。 ○E：自分の考えを言語化しアウトプットできる。		
事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする（20分）。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い自分自身のキャリア形成やライフスタイルについて考える（25分）。		
指導方法	各自パソコンを使用してノートをとる。 パワーポイント等を使用する。		

	フィードバックの仕方：課題については、授業後、直接個別対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D：課題を評価する。 ○E：課題を評価する。 課題80%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	毎回パソコンを持参すること。 受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。
アクティブ・ラー ニング	ディスカッション 実習

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
中村公子、村木桂子			
ナンバリング：F37C65			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	学生自ら志望する大学合格に向けて綿密なスケジュールを策定し、計画的な学習を行う。 各自のスケジュールに合わせた個別指導を受ける。 (授業目標) ◎C：自らの将来を正しく選択するための思考力や判断力を身につける。 ○D：短期大学での学びを基に、編入先の大学で通用する幅広い知識を得る。
授業計画	<p>1 オリエンテーション・進学準備カウンセリング 受験先決定に向けたカウンセリング 編入に向けて本格的な準備を始める</p> <p>2 学習計画書の作成(1)、情報収集・試験対策(1) 編入学試験までの学習スケジュール管理について学習する 自ら行うこと、支援を必要とする項目を整理する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>3 学習計画書の作成(2)、情報収集・試験対策(2) 第1志望校合格に向けて、各自の学習スケジュールを作成する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>4 志望理由書の書き方(1)、情報収集・試験対策(3) 編入学のポイントとなる志望理由書の書き方について学習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>5 志望理由書の書き方(2) 情報収集・試験対策(4) 編入学のポイントとなる志望理由書の書き方を実践練習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>6 面接対策(1)、情報収集・試験対策(5) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>7 面接対策(2)、情報収集・試験対策(6) 面接での受け答えについて実践練習する 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>8 状況確認及び進学カウンセリング、情報収集・試験対策(7) 現在の対策状況を確認し、必要があれば対策を練り直す 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>9 情報収集・試験対策(8) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>10 情報収集・試験対策(9) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>11 情報収集・試験対策(10) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>12 情報収集・試験対策(11) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>13 情報収集・試験対策(12) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>14 情報収集・試験対策(13) 学科、小論文、面接など、各自の試験に合わせて必要な対策を行う</p> <p>15 対策状況最終確認及び進学カウンセリング、今後のスケジュール確認 前期の対策をふりかえり、編入学に向けて今後の方針を確認する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることで合格を目指す。 ○D：受験に必要な知識や表現力を身につける。
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ対策を行う(30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策・論述及び面接指導を行う。 フィードバックの仕方：各課題に対応じて、添削指導や口頭でのフィードバックを行う。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：面接等から、志望大学合格のための計画が正しく実行されているかどうかで判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	『大学受験文系大学・学部の志望理由書の書き方：A0入試・推薦入試対策』（2007）シグマベスト
履修上の注意	自主的に志望大学の情報収集等を行うこと。 オープンキャンパス等に積極的に参加し、報告すること。
アクティブ・ラー ニング	特になし